

第7次稲沢市総合計画策定に向けた各種基礎調査等の結果について

統計データ分析や市民参画プログラム等から稲沢市の現状や将来のまちづくりのテーマに関連する情報を整理した。

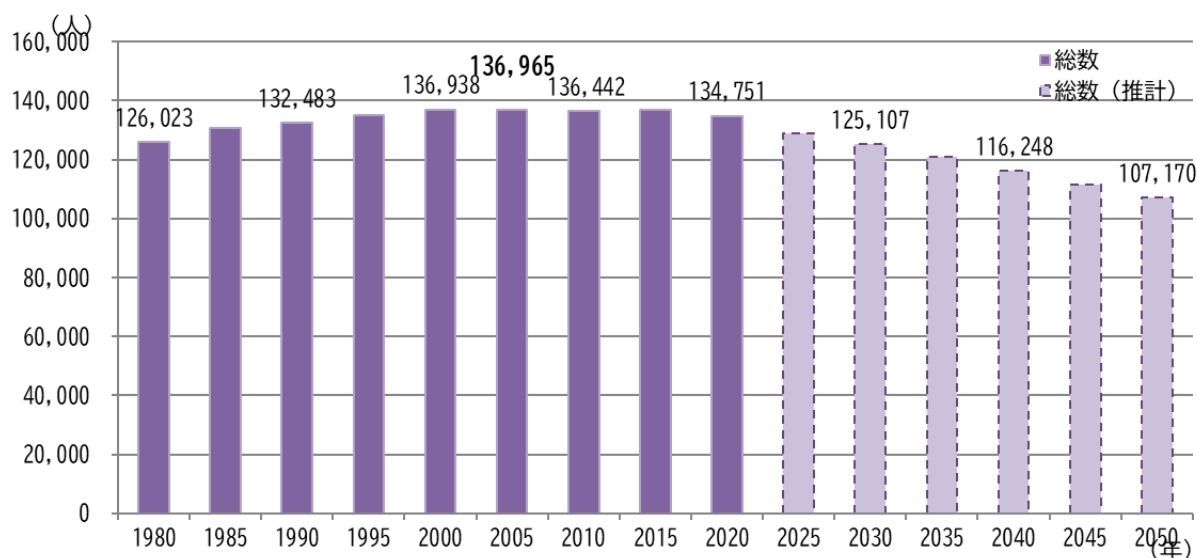
1. 稲沢市の人口の動向

稲沢市では 2005 年から人口が減少している。今後 30 年において老年人口（65 歳以上）は 1 割も増えない一方、生産年齢人口（15～64 歳人口）と年少人口（0～14 歳人口）がともに約 3 割減少する見通しにあり最大の課題となる。

■総人口の推移

- 2020（令和 2）年人口は 134,751 人であり、ピークとなった 2005（平成 17）年から 20 年間で約 2,200 人減少している。
- 2050 年の総人口は 2020（令和 2）年から約 27,600 人減少する見通しである。

総人口の推移（実績・推計）



資料：2020 年までは総務省「国勢調査」、2025 年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和 5 年推計）」

■年齢3階級別人口の推移

◎老年人口（65歳以上人口）

- 2020（令和2）年から2040年にかけて約3,800人増となるものの、それ以降は減少に転じる見通し。2050年は2020（令和2）年比約8%しか増えない見通しである。

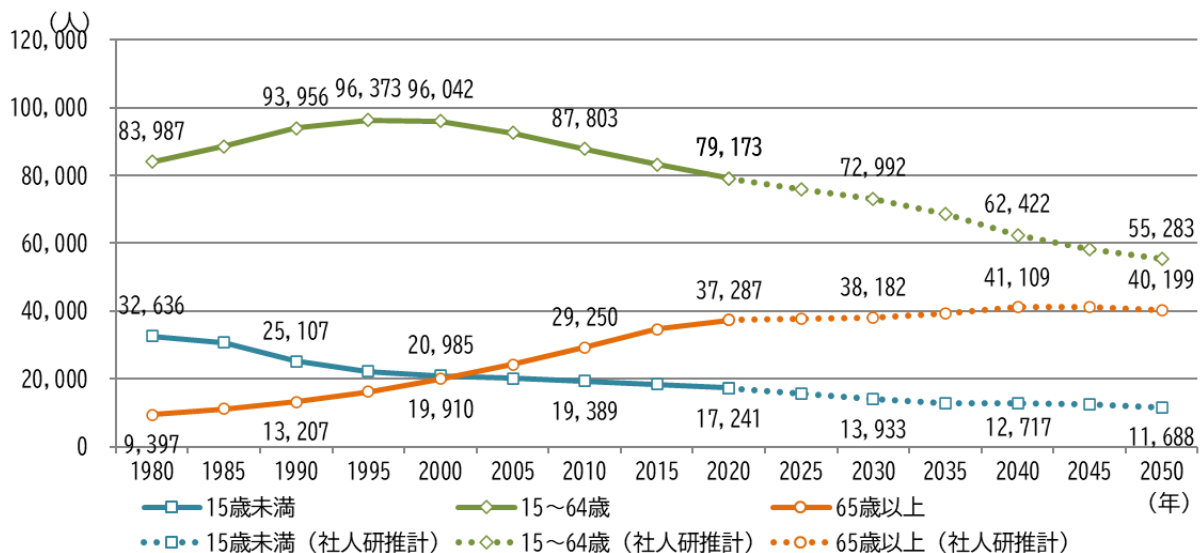
◎生産年齢人口（15～64歳人口）

- 総人口よりも10年早い1995（平成7）年にピークを迎える。
- 2020（令和2）年までの25年間で総人口を大きく上回る約17,200人が減少している。
- 今後、2050年までに更に約23,900人、割合で約30%も減少する見通しである。

◎年少人口（0～14歳人口）

- 長らく減少を続けている。
- 2020（令和2）年から2050年までの減少数は約5,600人にとどまるものの、減少率は約32%であり生産年齢人口よりも大きくなっている。

年齢3区分による人口の推移（実績・推計）

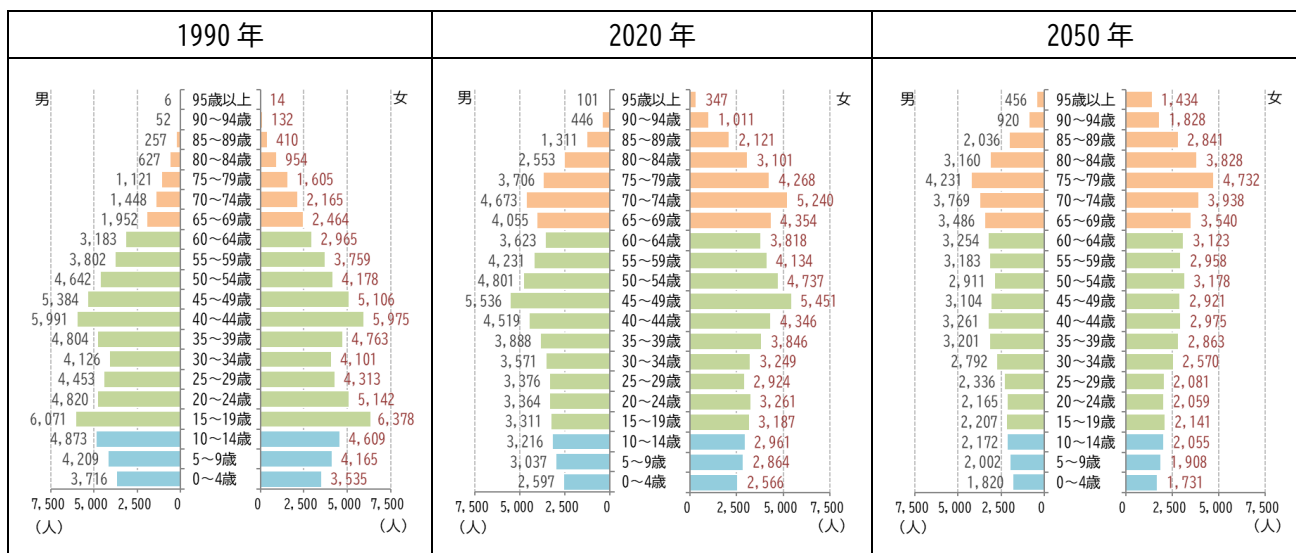


資料：2020年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

■人口ピラミッド

- 2020（令和2）年は、団塊の世代と団塊ジュニア世代のふたつのふくらみのある「ひょうたん型」の形状となっている。
- 2050年には団塊ジュニア世代が含まれる75～79歳人口が最大のボリュームゾーンとなる「逆富士山型」へと変化。0～4歳の男女別5歳人口は2020（令和2）年の2/3程度まで減少する見通しである。

人口ピラミッドの変化



資料：1990年・2020年は総務省「国勢調査」、2050年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

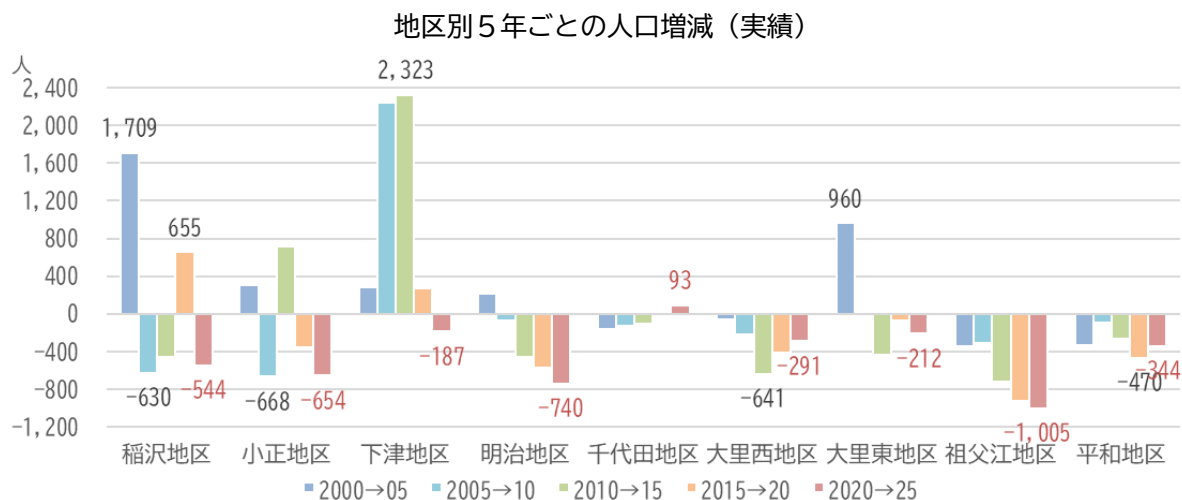
※1990年は旧稲沢市、旧祖父江町、旧平和町を合計した数値に基づく

2. 人口減少の内訳

地区による差はあるものの、市内全域で人口が減少。人口減少を加速化させている最大の要因は自然減（出生数－死亡数）。

■地区別人口

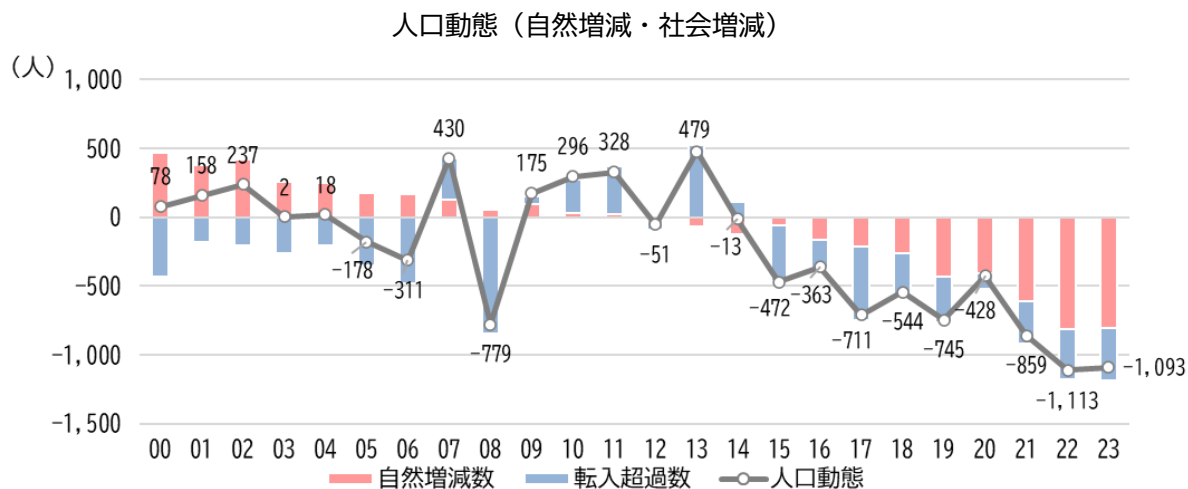
- 明治地区や祖父江地区、平和地区などの市西部では減少傾向となっている。
- 市東部ではＪＲ稲沢駅周辺開発が進められた下津地区をはじめ開発等に伴う人口増加がみられたものの、現在はいずれの地域も減少している。



資料：「住民基本台帳」（各年 10 月 1 日現在。外国人含む）をもとに作成

■人口動態

- 2015（平成 27）年以降は自然減と転出超過により減少傾向が続いており、近年は 1,000 人を超える減少規模となっている。
- 2015（平成 27）年から 2018（平成 30）年までは転出超過の影響が大きかったが、2019（令和元）年以降は自然減が社会減を超えており、人口減少の要因となっている。



資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（日本人のみ）

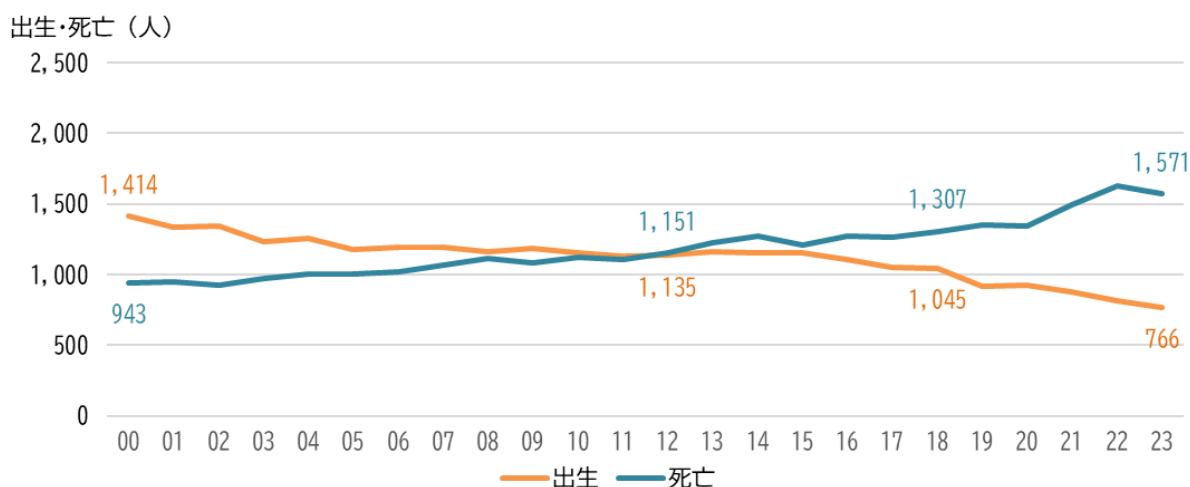
3. 自然増減の要因

稲沢市では死亡数の増加と出生数の減少がともに進み自然減が加速。合計特殊出生率は低下しているものの、子ども女性比は低下しておらず、少子化の背景は母親になる年代の女性の減少が大きく影響。

■出生数および死亡数

- 稲沢市では、2012（平成 24）年に死亡数が出生数を上回ったが、それ以降は、死亡数の増加と出生数の減少がともに進んでおり、両者が自然減を加速させる要因となっている。

出生数および死亡数の推移

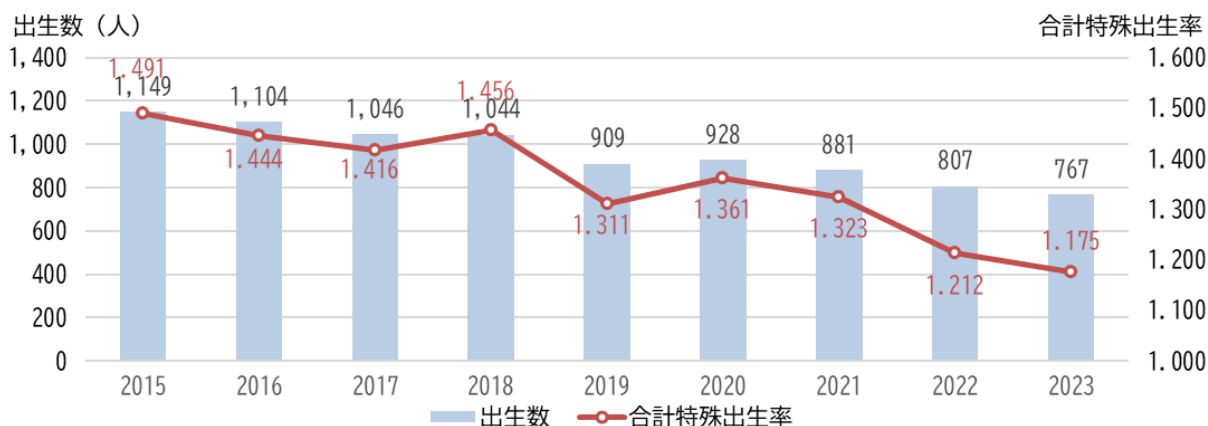


資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

■合計特殊出生率

- 稲沢市の合計特殊出生率は概ね右肩下がりとなっており、2023（令和 5）年には 1.175 となり、かつて国民希望出生率とされた 1.80 を大きく下回る。

出生数および合計特殊出生率の推移

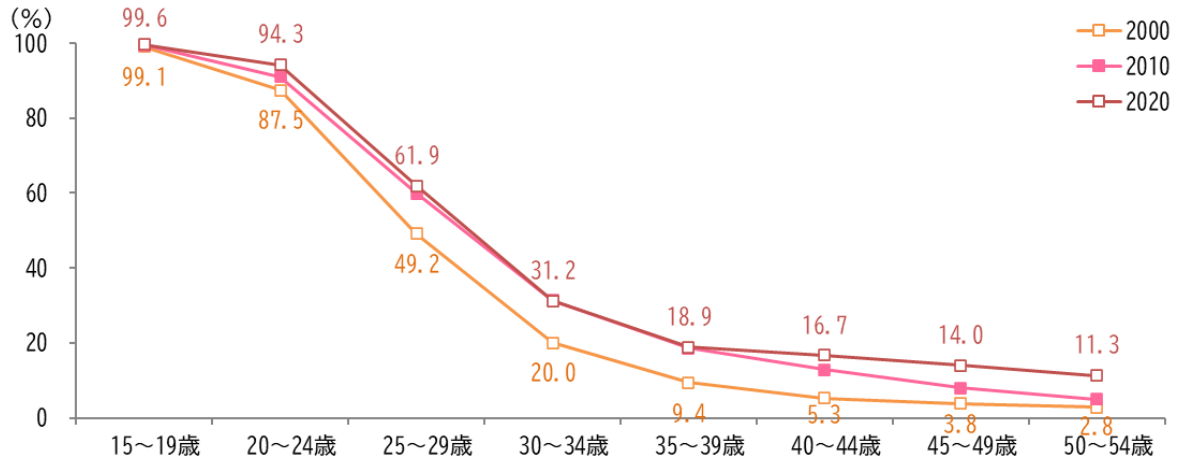


※前述「出生および死亡の推移」と出典データが異なるため数値が一致しない
資料：愛知県衛生年報、愛知県人口動向調査結果年齢別人口をもとに算出

■女性の年齢5歳階級別未婚率

- 女性の年齢5歳階級別未婚率を見ると、2000（平成12）年から2020（令和2）年にかけて25～29歳より上の年齢階級で大きく上昇、晩婚化や未婚化が進んでいる。

年齢5歳階級別未婚率の推移（女性）

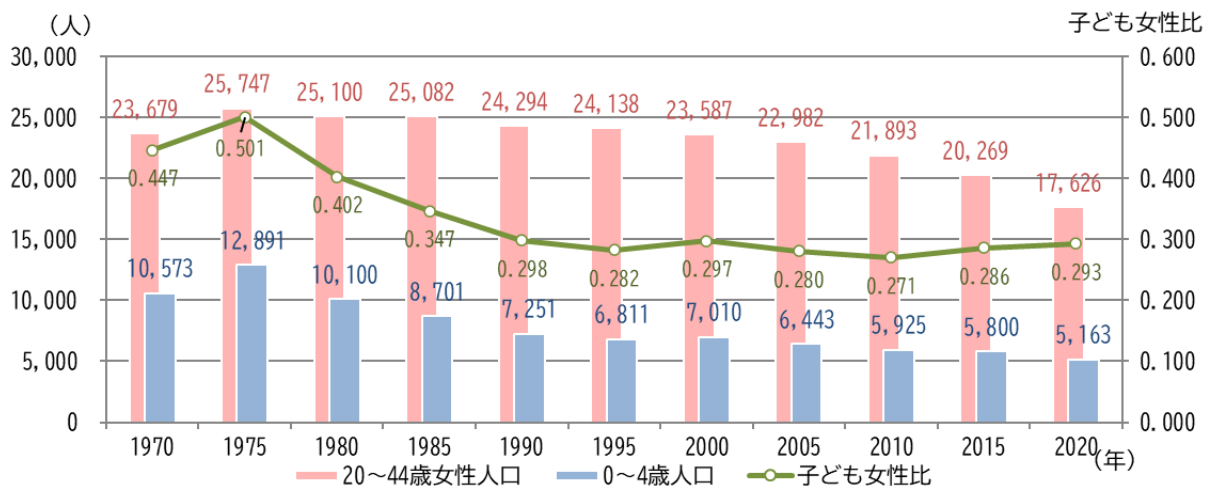


資料：総務省「国勢調査」

■子ども女性比

- 子ども女性比は、1975（昭和50）年に約0.50であったものが1990（平成2）年には0.30を割り込むまでに急速に低下したが、その後2020（令和2）年までは0.27～0.30の間を横ばいで推移している。
- 20～44歳女性人口は、2000（平成12）年から2020（令和2）年までの20年間で約25%にあたる約6,000人が減少しており、この人口減少が出生数の減少に大きな影響を与えている。

20～44歳女性人口・0～4歳人口・子ども女性比の推移



※子ども女性比：0～4歳人口/20～44歳女性人口

合計特殊出生率は生まれた子ども数をもとに算出されるため、出産して持ち家取得時に転入する世帯が多い地域では値が低くなる。子ども女性比は、生まれたのち転入・転出した子ども数を含むため、地域の少子化状況を適切に把握することができる。

資料：総務省「国勢調査」

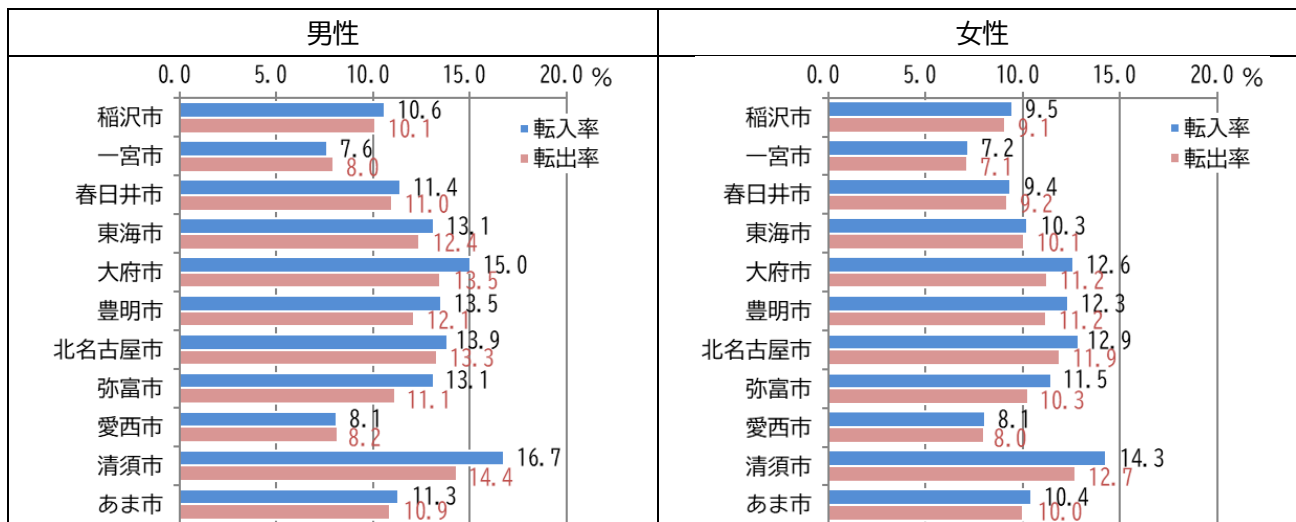
4. 社会増減の要因

稲沢市は転入・転出による移動が少ないが、20代前半の男女と20代後半の女性といった若い世代の転出超過が顕著。30代から40代前半まで転出の傾向が続いている。

■転入率・転出率

- 稲沢市は名古屋駅から鉄道アクセス10分台の都市や近隣市のなかで、転入率や転出率が低い都市のひとつとなっている。

転入率・転出率（左：男性・右：女性）



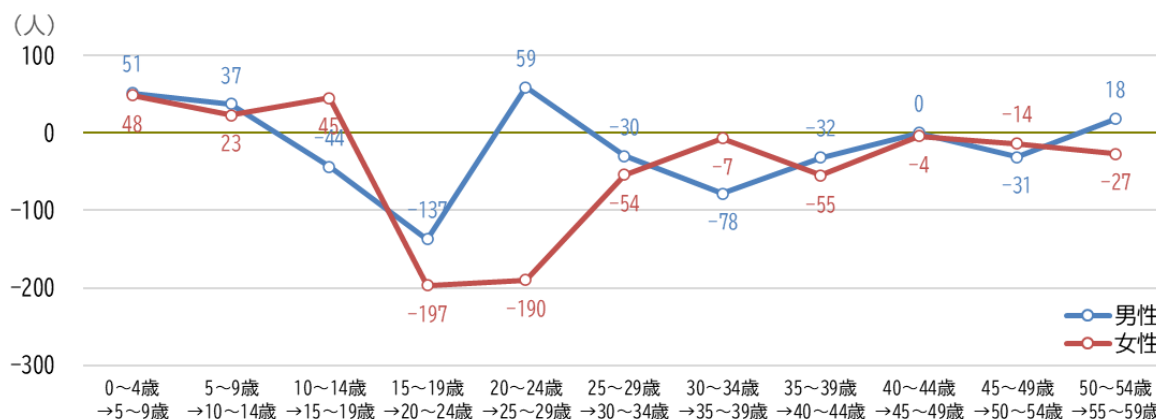
※転入率：常住者のうち5年前以降の転入した人の割合／転出率：5年前の常住者のうち転出した人の割合

資料：総務省「令和2年国勢調査」をもとに作成

■年齢5歳階級別純移動数

- 男性は20～24歳になる年齢階級、女性は20～24歳および25～29歳になる年齢階級が大きくマイナスであり、進学や就職が理由とした市外への転出が想定される。

年齢階級別純移動数（2015年→2020年）

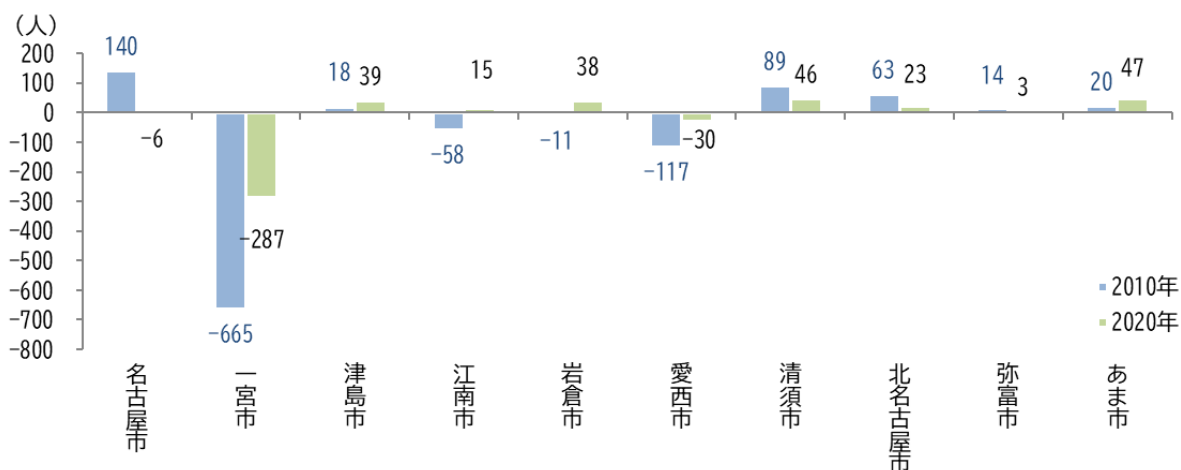


資料：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

■地域別転入・転出状況（県内）

- 近年は一宮市への転出超過が突出して大きい。一方、転入超過となっているのは、清須市やあま市など一部の都市に限られ、その規模も小さくなっている。

周辺市との転入・転出状況の推移

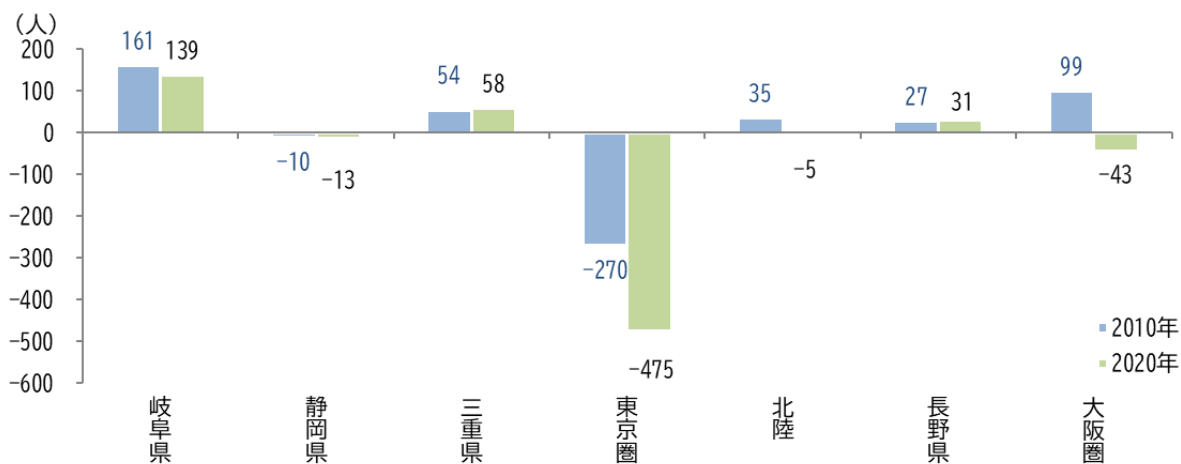


資料：総務省「令和2年・平成22年国勢調査」

■地域別転入・転出状況（県外）

- 稲沢市から東京圏への転出超過が大きく、10年前と比較して増加している。
- 岐阜県や三重県は転入超過であるが、東京圏の転出超過と比較して小規模である。

県外他地域との転入・転出状況の推移



※東京圏：埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県、北陸：富山県・石川県・福井県、大阪圏：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県

資料：総務省「令和2年・平成22年国勢調査」

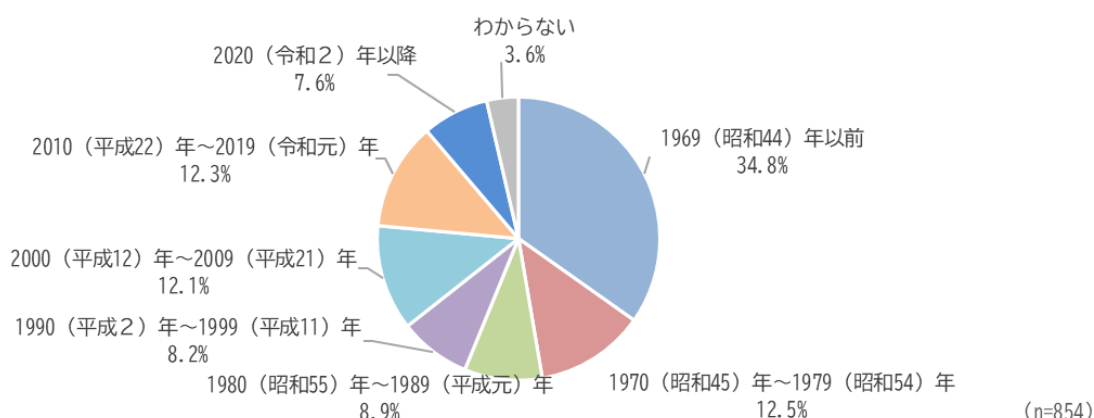
5. 若い世代の定住に関するデータ

稲沢市の世帯の半数近くが居住歴 50 年を超えており、子ども世帯の独立が進行。若い世代向け賃貸住宅の供給が少なく、子ども世帯は市外に転出している可能性がある。

■稲沢市の居住開始時期

- 概ね昭和期である 1989（平成元）年以前に稲沢市に住宅を構えた世帯が半数を超える一方、2010（平成 22）年以降の世帯は約 2 割にとどまる。

あなたや、あなたの家族がはじめて稲沢市に居住した時期

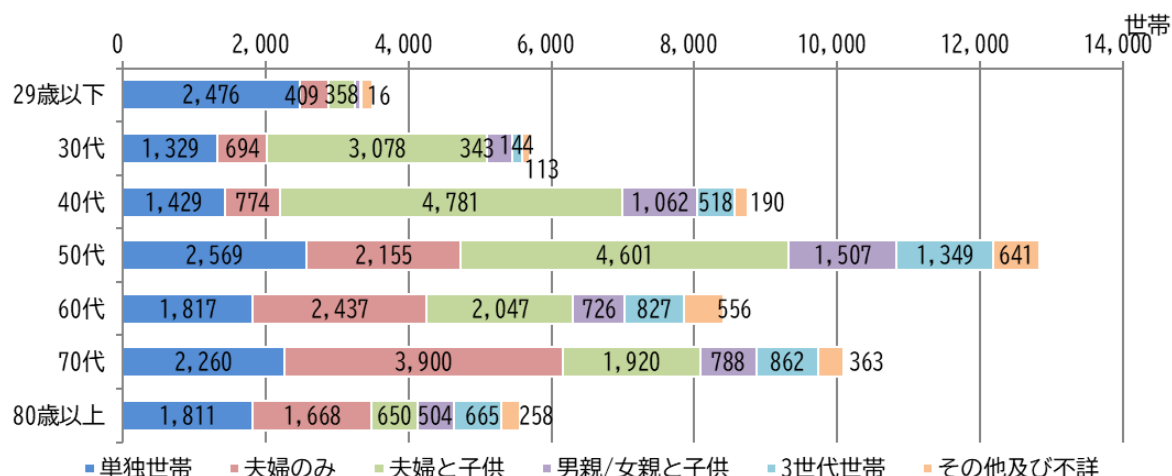


資料：市民意識調査

■世帯主の年齢階級別による家族類型

- 世帯主が 60 代以上になると「夫婦と子供」が少なく、「夫婦のみ」や「単身」の割合が大きく、子ども世代が独立したものと推察される。

世帯主の年齢階級別による家族類型別世帯数

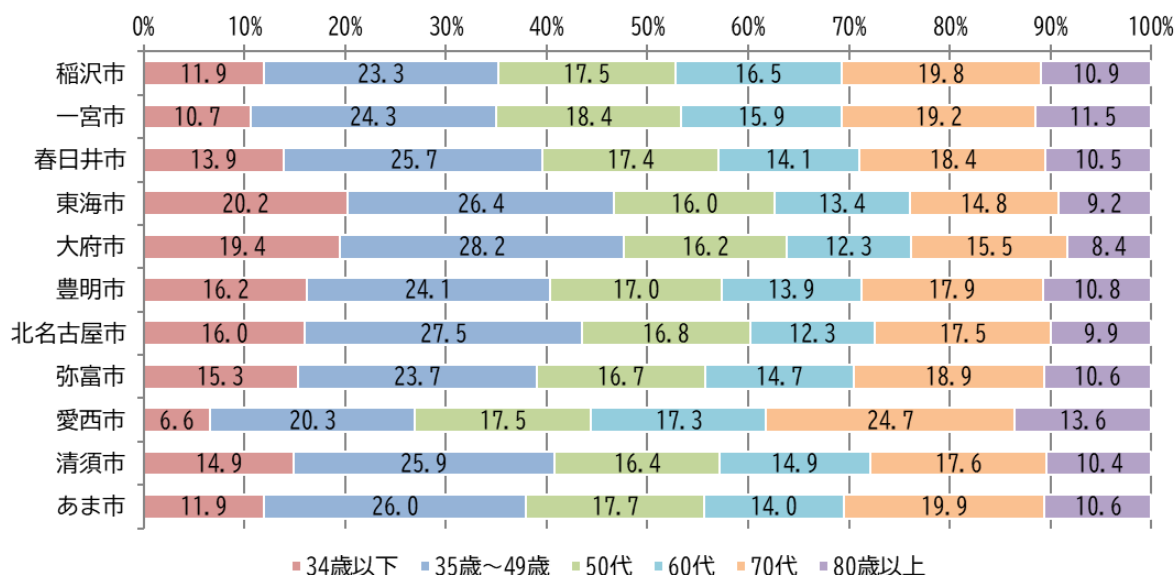


資料：総務省「令和 2 年国勢調査」

■世帯主の年齢階級別による世帯構成

稲沢市では世帯主の年齢が 34 歳以下の世帯割合が、名古屋駅から鉄道アクセス 10 分台の都市や近隣市のなかでも割合の低い都市のひとつになっている。

世帯主の年齢階級別による世帯構成比

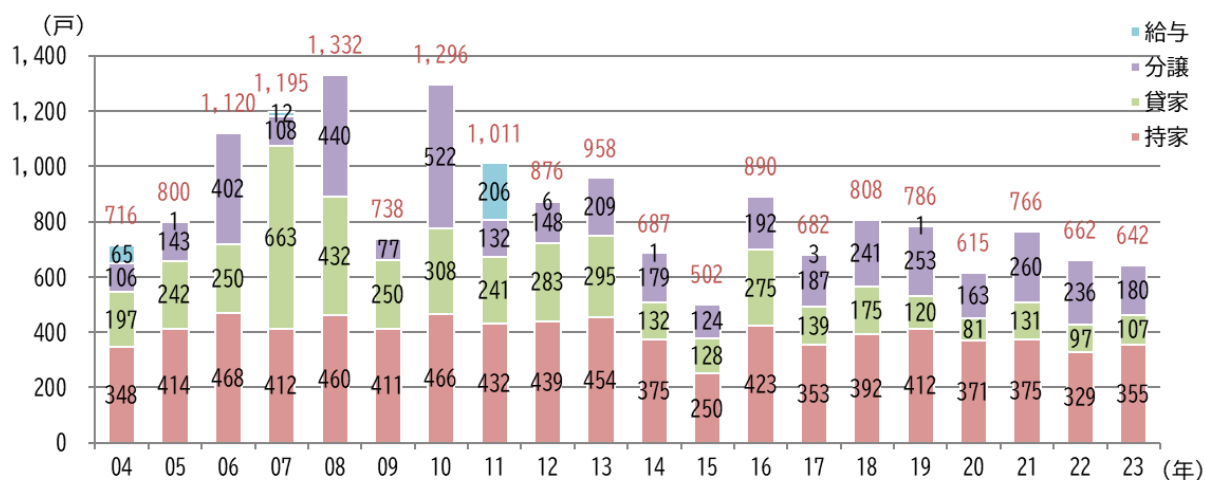


※世帯主の年齢不詳を除いて算出
資料：総務省「令和2年国勢調査」

■新設住宅着工戸数

- JR 稲沢駅周辺開発の影響のあった 2010（平成 22）年前後と比較して、2014（平成 26）年以降は 600～800 戸程度となり大きく減少している。
- 2014 年（平成 26）年以降、貸家の着工戸数が少なく、子どもの独立や新たな家族形成などの受け皿が不足し、若い世代の定住や転入を妨げる一因となっていることが推察される。

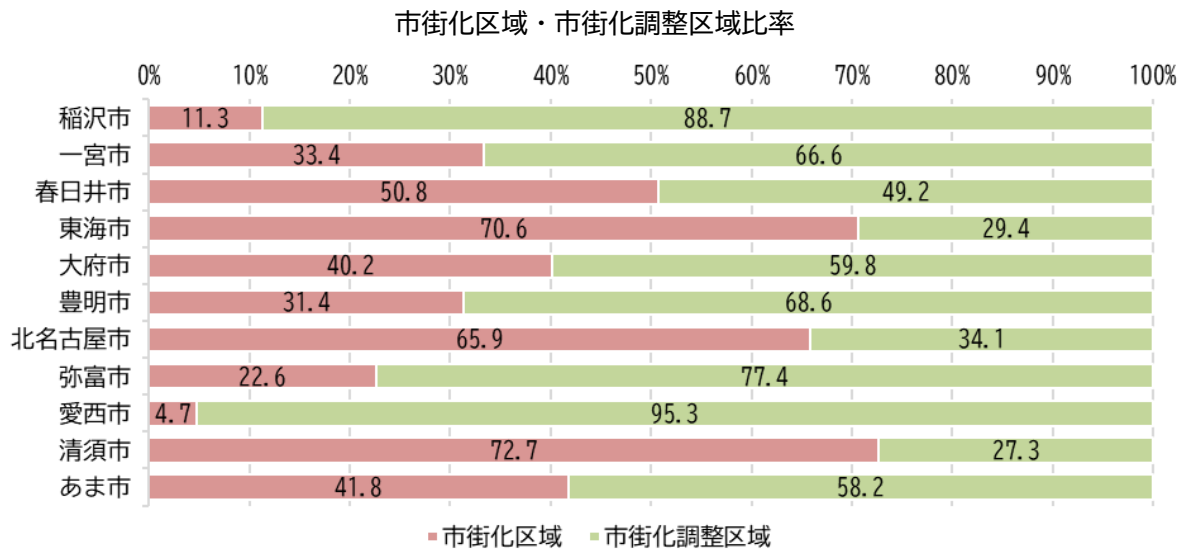
新設住宅着工戸数の推移



資料：国土交通省「建築着工統計調査」

■市街化区域、市街化調整区域比率

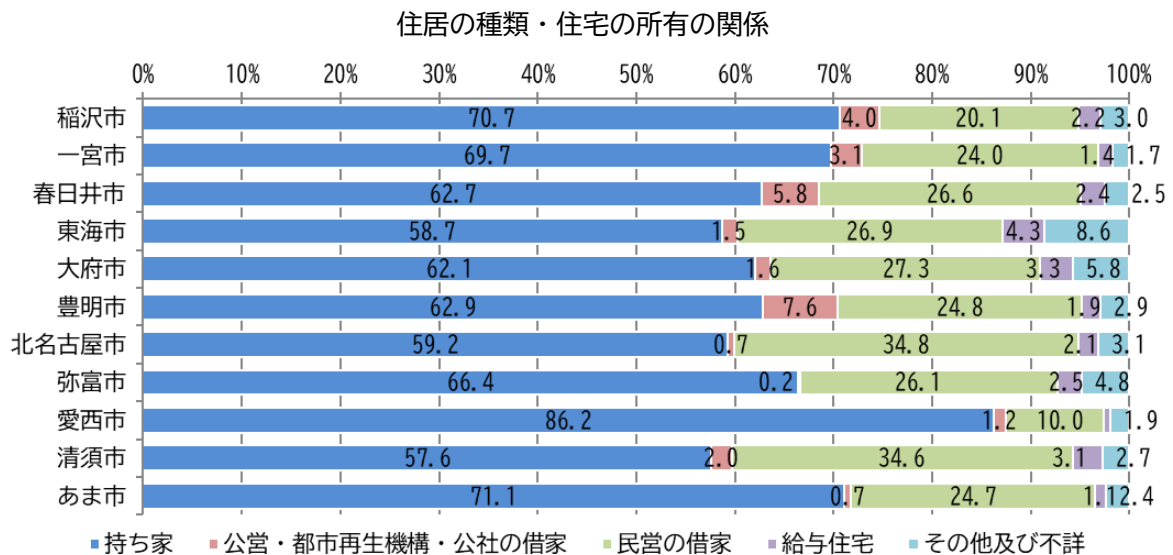
- 稲沢市は市街化区域比率が 11.3%であり、名古屋駅から鉄道アクセス 10 分台の都市や近隣市のなかで愛西市に次いで 2 番目に低くなっている。



資料：県都市・交通局都市基盤部都市計画課「土地に関する統計年報」（2024 年 1 月 1 日）

■住居の種類・住宅の所有の関係

- 稲沢市では、持ち家に居住する世帯の割合が 70.7%となり、全体の約 3/4 を占める。
- 名古屋駅から鉄道アクセス 10 分台の都市や近隣市と比較すると、「民営の借家」の割合が愛西市に次いで低くなっている。



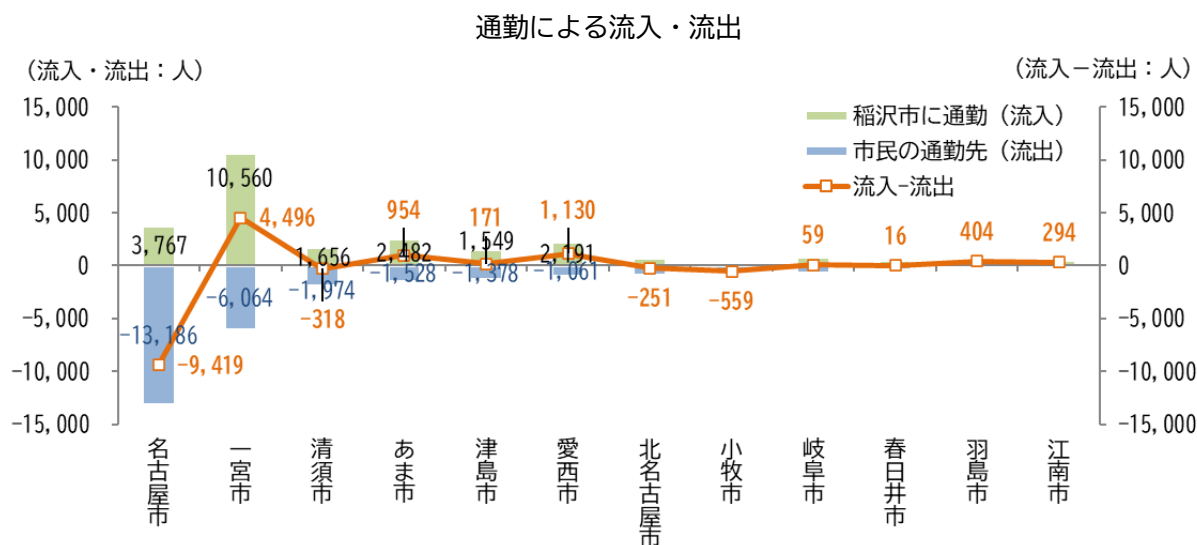
資料：総務省「令和 2 年国勢調査」

6. 稲沢市の地域特性

稲沢市は名古屋市への通勤都市としての側面を有する一方、一宮市から多くの通勤者を受け入れているなど、働くまちとしての側面も強い。消費購買の市外流出も少なく、名古屋市のベッドタウンとしての機能も有しながらも、拠点性のある都市としての性質を有している。

■通勤による流入・流出

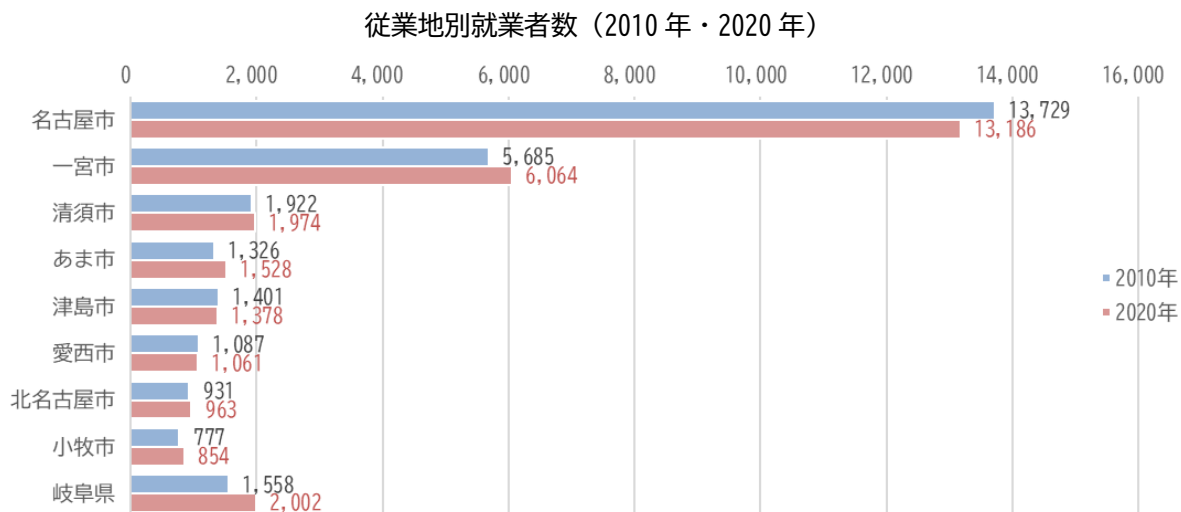
- ・ 稲沢市では名古屋市からの通勤者を1万人近く上回る就業者が名古屋市に通勤している。
- ・ 一方、一宮市との関係をみると、約4,500人が稲沢市に通勤で流入しており、「働くまち」という側面を有している。



資料：総務省「令和2年国勢調査」

■従業地別就業者数

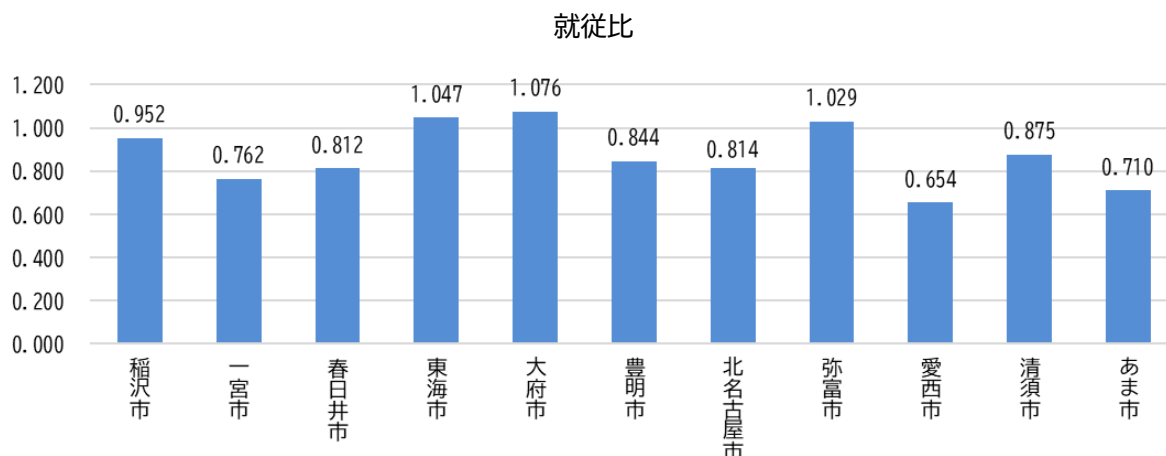
- ・ 2010（平成22）年から2020（令和2）年にかけて、名古屋市に通勤する人は減少している一方、一宮市や岐阜県に通勤する人が増加している。



資料：総務省「令和2年国勢調査」

■就従比

- 稲沢市の就従比は 0.952 であり、名古屋市ベッドタウンの側面を有する一宮市や春日井市、北名古屋市等と比較して高くなっている。



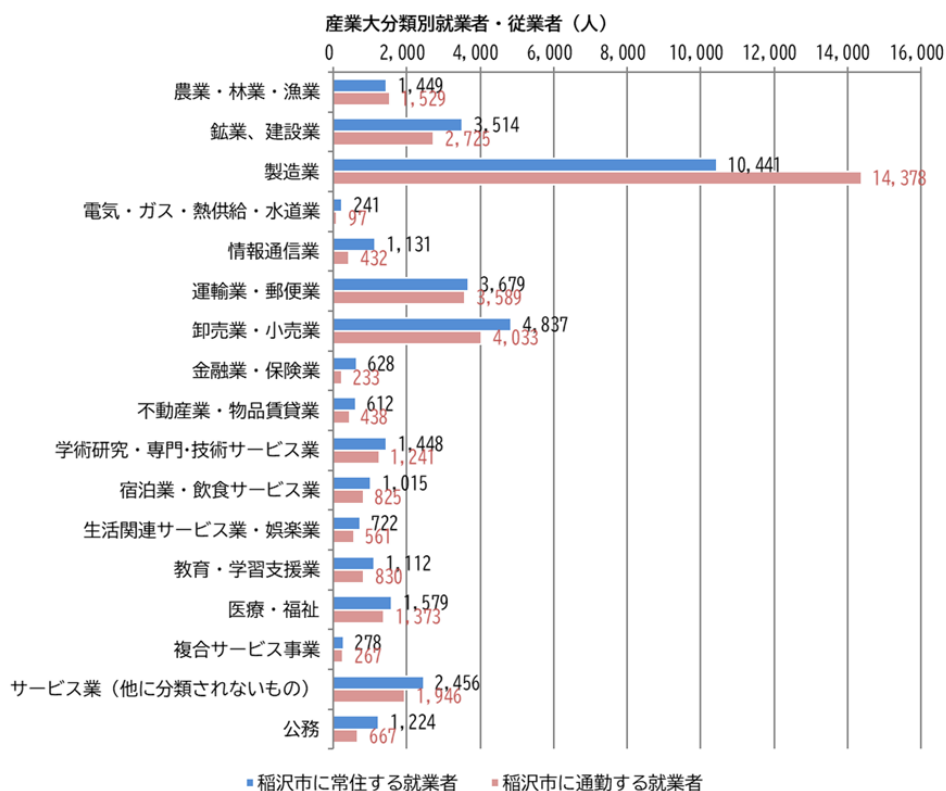
※就従比：当該市で従業する就業者数／当該市の就業者数（昼夜間人口比から通学の要素を除いたもの）

資料：総務省「令和2年国勢調査」

■産業大分類別就業者・従業者

- 本市の製造業における就業地としての人口（従業者数）は、製造業に就業する市内居住者数（就業者数）を大幅に上回っている。
- その他の業種の多くは下回っており、製造業で多くの雇用を創出していることがうかがえる。

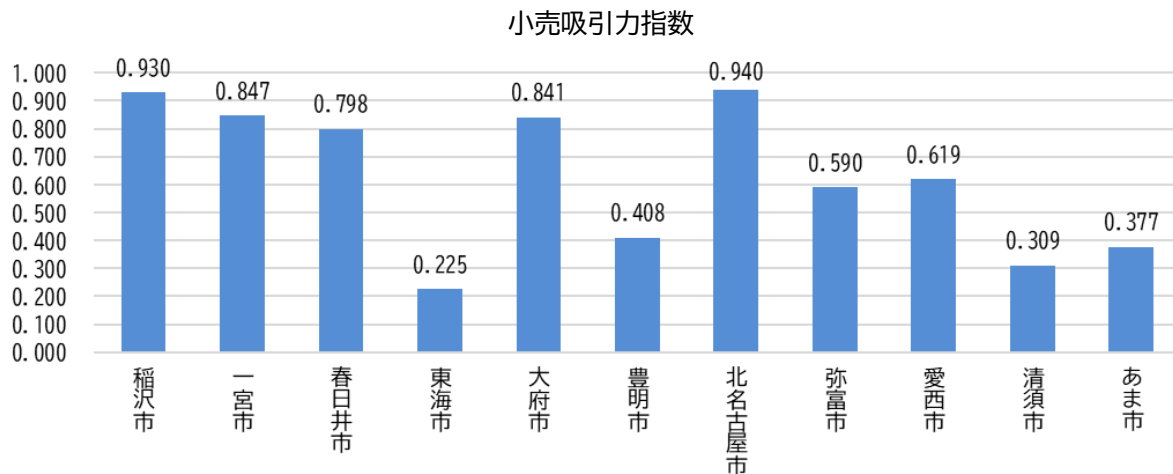
産業大分類別就業者・従業者



資料：総務省「令和2年国勢調査」

■小売吸引力指数

- 稲沢市の小売吸引力指数は約 0.930 で、市民の消費購買活動のうち市外に流出しているのは 1 割にも満たない。名古屋駅から鉄道アクセス 10 分台の都市や近隣市のなかで商業の拠点性が高い都市のひとつとなっている。

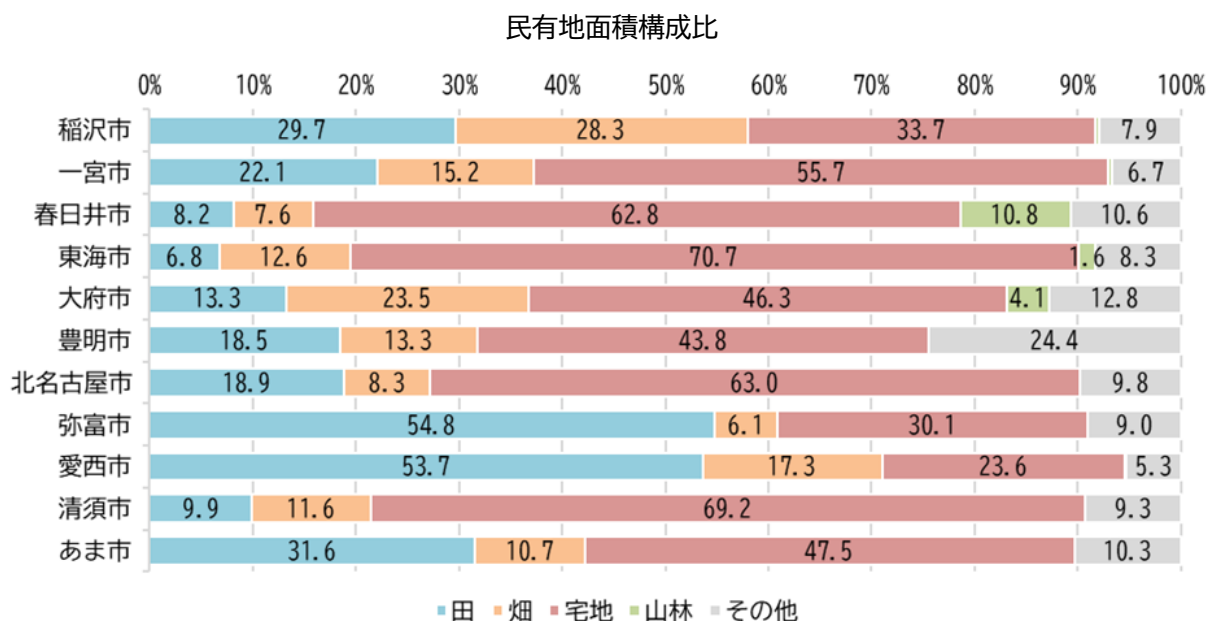


※小売吸引力指数：当該市の人口あたり小売業年間商品販売額／当該市の属する県の人口あたり小売業年間商品販売額
当該地域が周辺からどれだけ買物客を引き付けているかを数値化した指標で、1 を超えると域外から買物客を呼び込んでおり、1 未満であると地域住民の購買が他地域へ流出していると判断される。

資料：総務省、経済産業省「経済センサス - 活動調査」（2021 年 6 月 1 日）をもとに算出

■民有地面積構成比

- 稲沢市では、民有地のうち宅地が約 34%と最も高い割合を占めているものの、名古屋駅から鉄道アクセス 10 分台の都市や近隣市のなかでも低い割合の都市のひとつとなっている。
- 一方、田と畑を合わせた農地 60%近くを占めており、農地の割合が高い都市のひとつである。



資料：県総務局総務部市町村課「市町村行財政のあらまし」（2024 年 1 月 1 日）

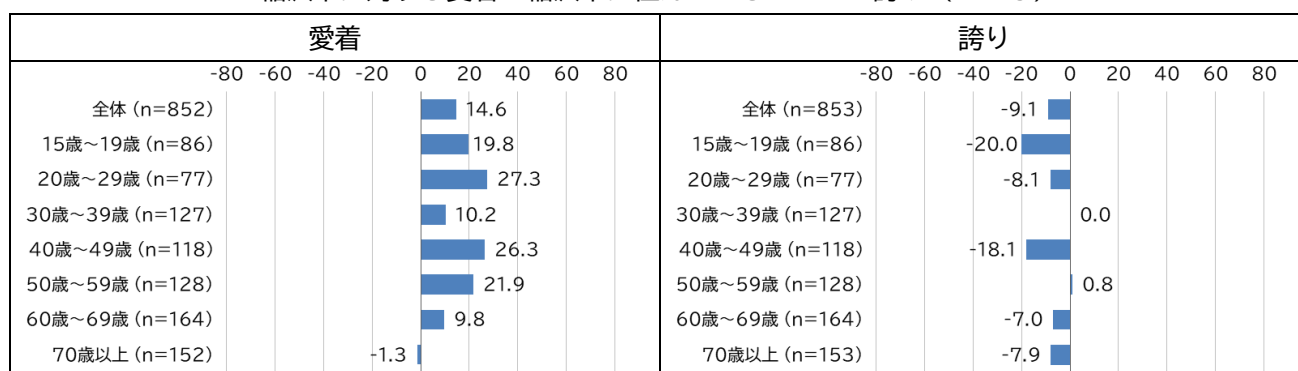
7. 市民の稲沢市に対する思い

若い世代は他の世代と比較しても稲沢市への愛着が低い訳ではないものの、一方で、親から独立したとき、出産・子育てする時期に住むという面での評価が低くなっている。また、あらゆる世代が「働くまち」や観光や遊びで「訪れるまち」としてのイメージを持っていない。

■稲沢市に対する愛着と誇り

- 「稲沢市に対する愛着」を強く抱いている人は、70歳以上を除いて多くなっており、年代による差異も少ない。
- 一方で、「稲沢市に住んでいることへの誇り」を強く抱いている人はいずれの年代も少ない。

稲沢市に対する愛着と稲沢市に住んでいることへの誇り（NPS）



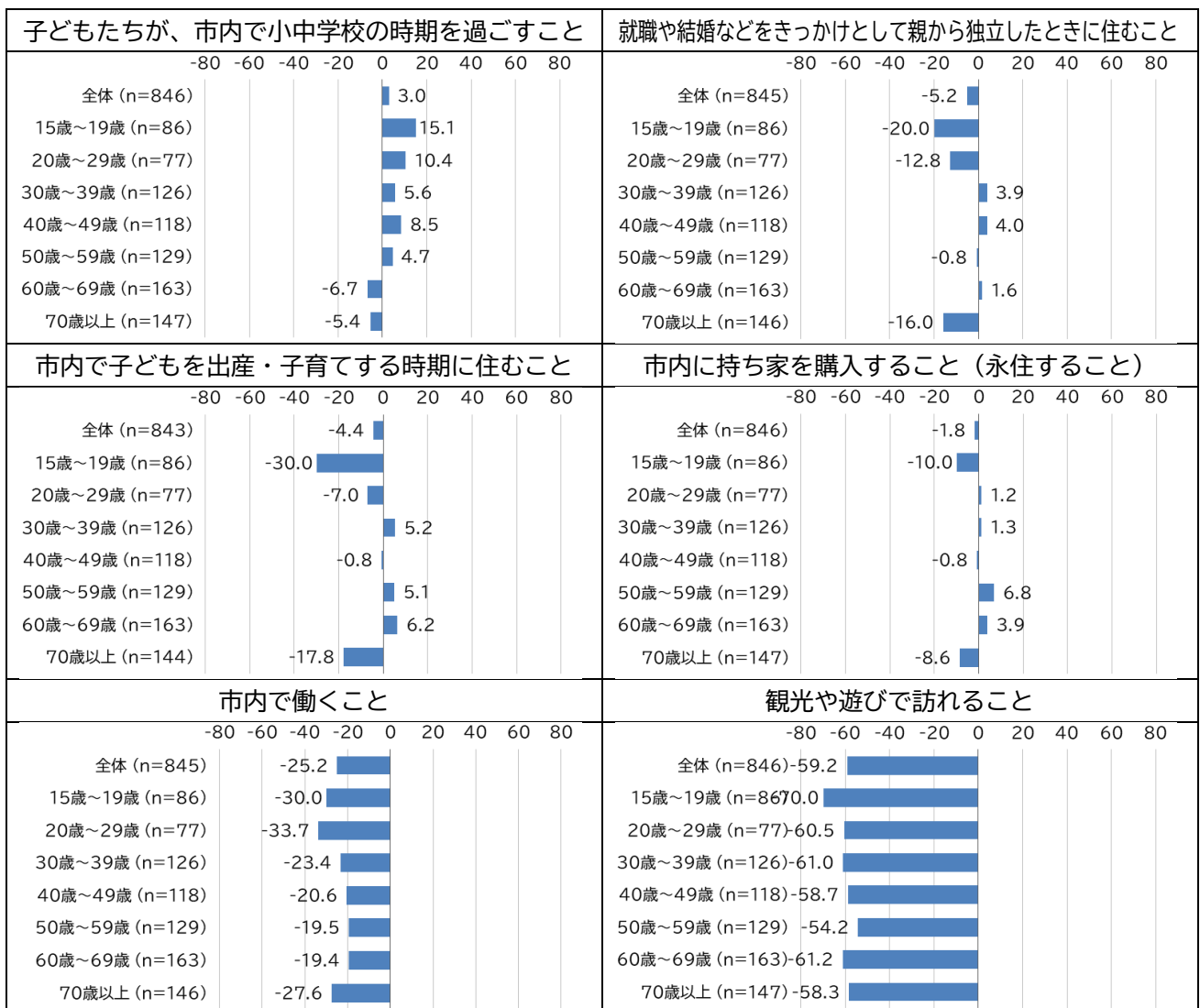
※NPS：10～8点を同意、7～5点を中立、4～0点を非同意とし、同意の割合から非同意の割合の差を算出して指数化したもの。得点がプラスであれば肯定的に評価していることになる。なお、本来NPSでは10～9点を同意、8～7点を中立、6～0点を非同意とするが、ほとんどの都市において得点がマイナスになることから、本調査ではスコア算出基準を変えている。

資料：市民意識調査

■稲沢市のお勧め度合い

- 29歳以下の若い世代は「市内で小中学校の時期を過ごすこと」を強くお勧めしている人が多いが、「就職や結婚などをきっかけとして親から独立したときに住むこと」や「市内で子どもを出産・子育てする時期に住むこと」をお勧めしている人は少なくなっている。
- 一方、「30～39歳」や「40～49歳」になると、「市内で小中学校の時期を過ごすこと」と「就職や結婚などをきっかけとして親から独立したときに住むこと」のともに強くお勧めしている人が多くなっている。「市内で子どもを出産・子育てする時期に住むこと」については、「30～39歳」で強くお勧めしている人が多いものの、「40～49歳」は少なくなっている。
- 「市内に持ち家を購入すること（永住すること）」については、「20～29歳」、「30～39歳」、「50～59歳」、「60～69歳」で評価がされている。
- 「市内で働くこと」と「観光や遊びで訪れること」については、すべての年代の人がお勧めできないと考えている。

稲沢市のお勧め度合い（NPS）



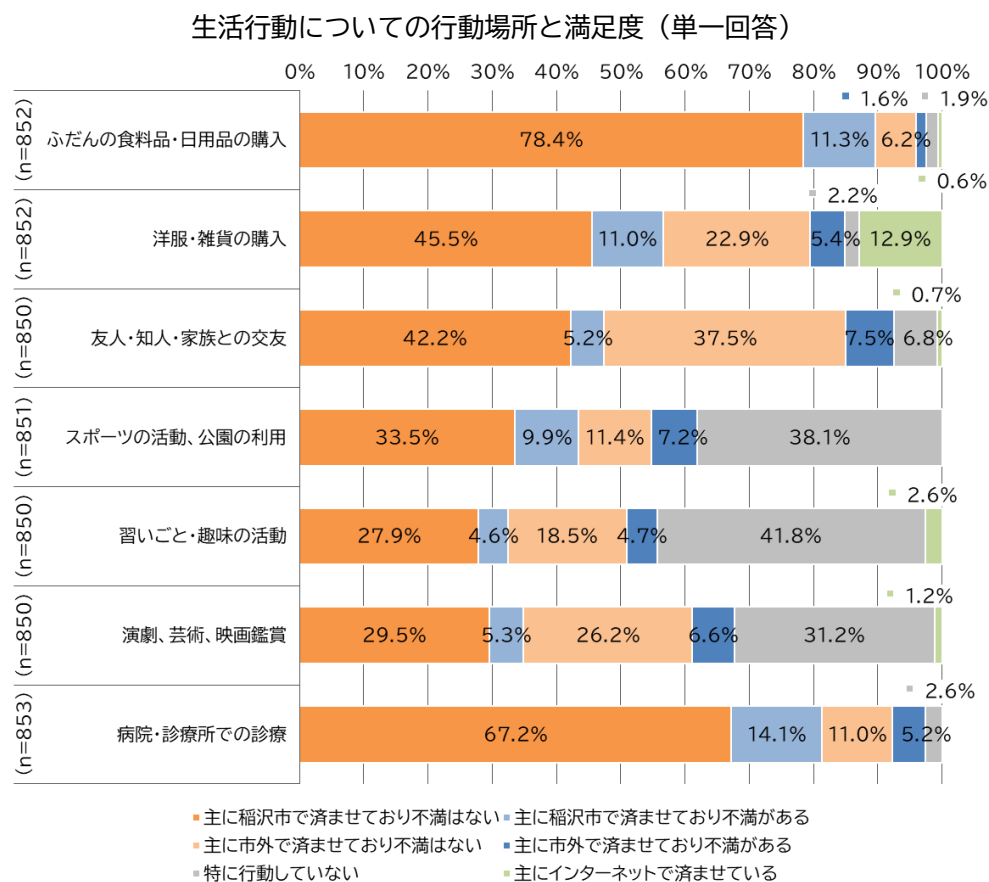
資料：市民意識調査

8. 稲沢市での暮らしに対する評価

市民生活は市域を超えて広がっているものの、全体的な満足度は高い。稲沢市で生活するメリットは名古屋市への近さ、自然環境・緑の豊かさが挙げられ、子どもは祭り・イベントや遊べる場所が多いところを評価。

■生活行動についての行動場所と満足度

- 生活行動のうち「友人・知人・家族との交友」や「演劇、芸術、映画鑑賞」、「習いごと・趣味の活動」について市外で済ませる人が多いものの、不満に感じている人は総じて少なくなっている。

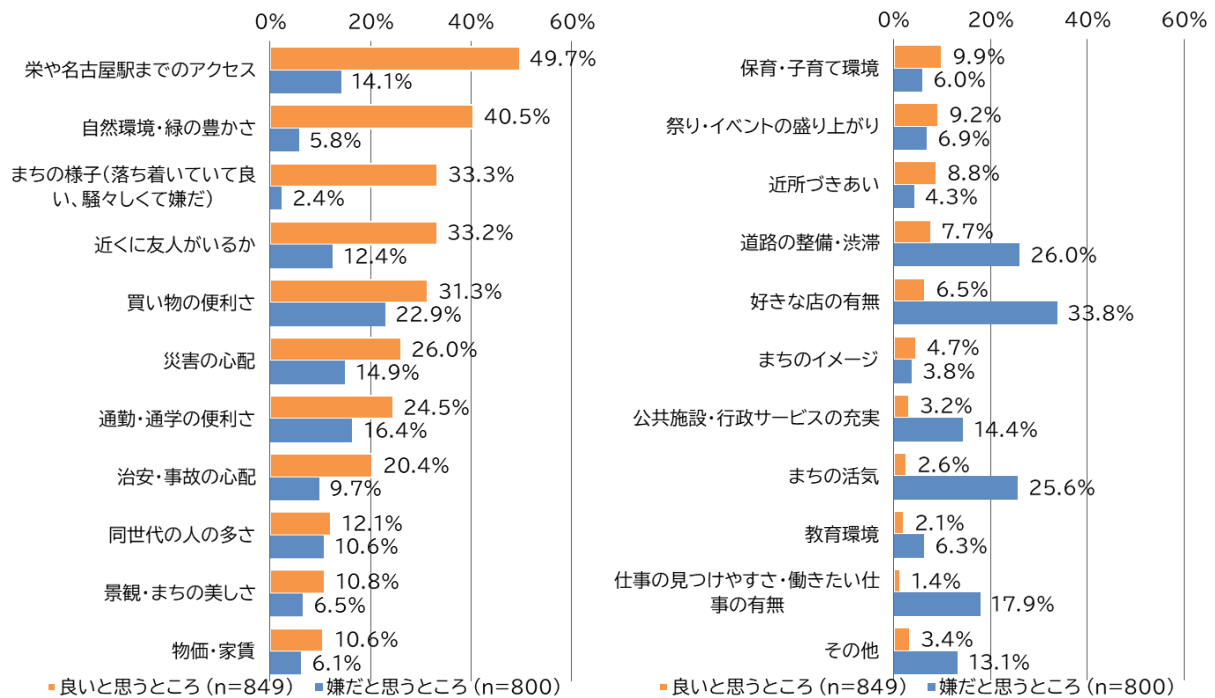


資料：市民意識調査

■稲沢市で生活していて良いと思うところ、嫌だと思うところ

- 稲沢市で生活していて良いと思うところについて、「栄や名古屋駅までのアクセス」、「自然環境・緑の豊かさ」が上位となっている。
- 嫌だと思うところは、「道路の整備・渋滞」、「好きな店の有無」、「まちの活気」が上位となっている。
- 「買い物の利便さ」は良いと思う割合と、嫌だと思う割合がともに高く、居住する地域や年代による認識の違いが生じていると考えられる。

稲沢市で生活していて良いと思うところ、嫌だと思うところ（複数回答）

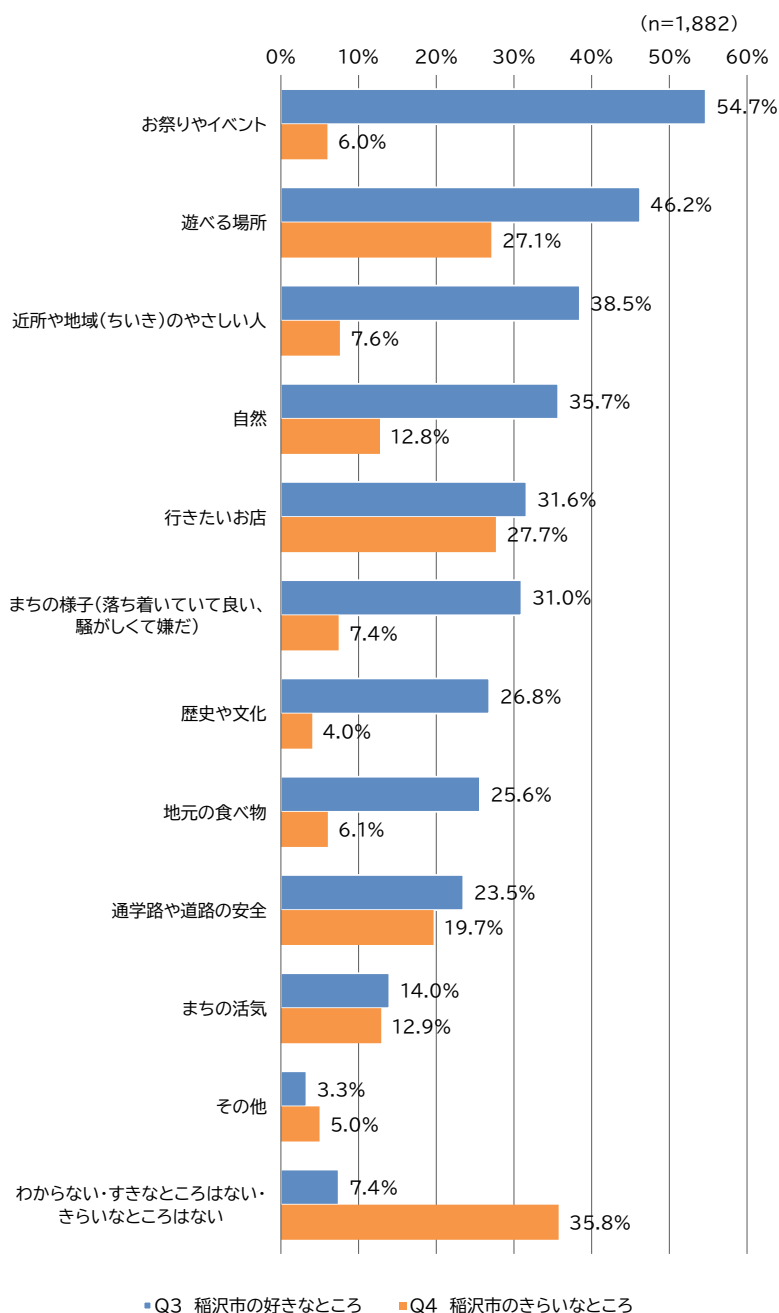


資料：市民意識調査

■稲沢市の好きなおところ、きらいなおところ〈小学生〉（複数回答）

- 小学生においては、お祭りやイベント、遊べる場所、人のやさしさ、自然が上位となっており、市民意識調査結果との傾向が異なっている。
- 好きなおところ、きらいなおところを比較すると、「お祭りやイベント」、「近所や地域（ちいき）のやさしい人」、「まちの様子」などでは、好きなおところと回答した割合がきらいなおところと回答した割合を大きく上回っている。
- 「まちの活気」、「通学路や道路の安全」、「行きたいお店」は好きなおところと回答した割合がきらいなおところと回答した割合をわずかに上回っている。

稲沢市の好きなおところ、きらいなおところ〈小学生〉



資料：小学生アンケート調査

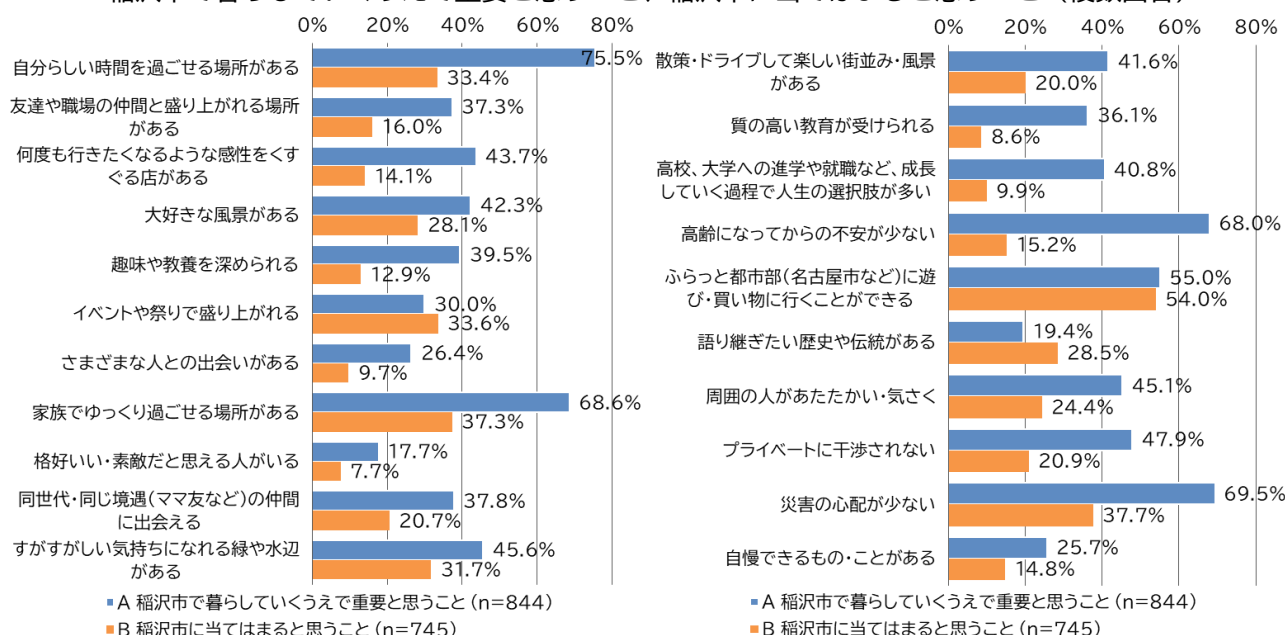
9. 稲沢市で希望する暮らし

自分らしさと家族との時間を重視する人が多い。若い世代は、自分の時間の充実や都市的活動と落ち着いた日常生活の両立を希望。

■稲沢市で暮らしていくうえで重要と思うこと、稲沢市に当てはまると思うこと

- 暮らしていくうえで重要と思う割合の高い項目のうち、「ふらっと都市部（名古屋市など）に遊び・買い物に行くことができる」は、当てはまると思う割合も同程度に高く、稲沢市で居住する強みの一つとなっている。
- 「自分らしい時間を過ごせる場所がある」や「家族でゆっくり過ごせる場所がある」、「災害の心配が少ない」、「高齢になってからの不安が少ない」も、暮らしていくうえで重要とされる一方、当てはまると思う割合はその半数程度となっている。

稲沢市で暮らしていくうえで重要と思うこと、稲沢市に当てはまると思うこと（複数回答）

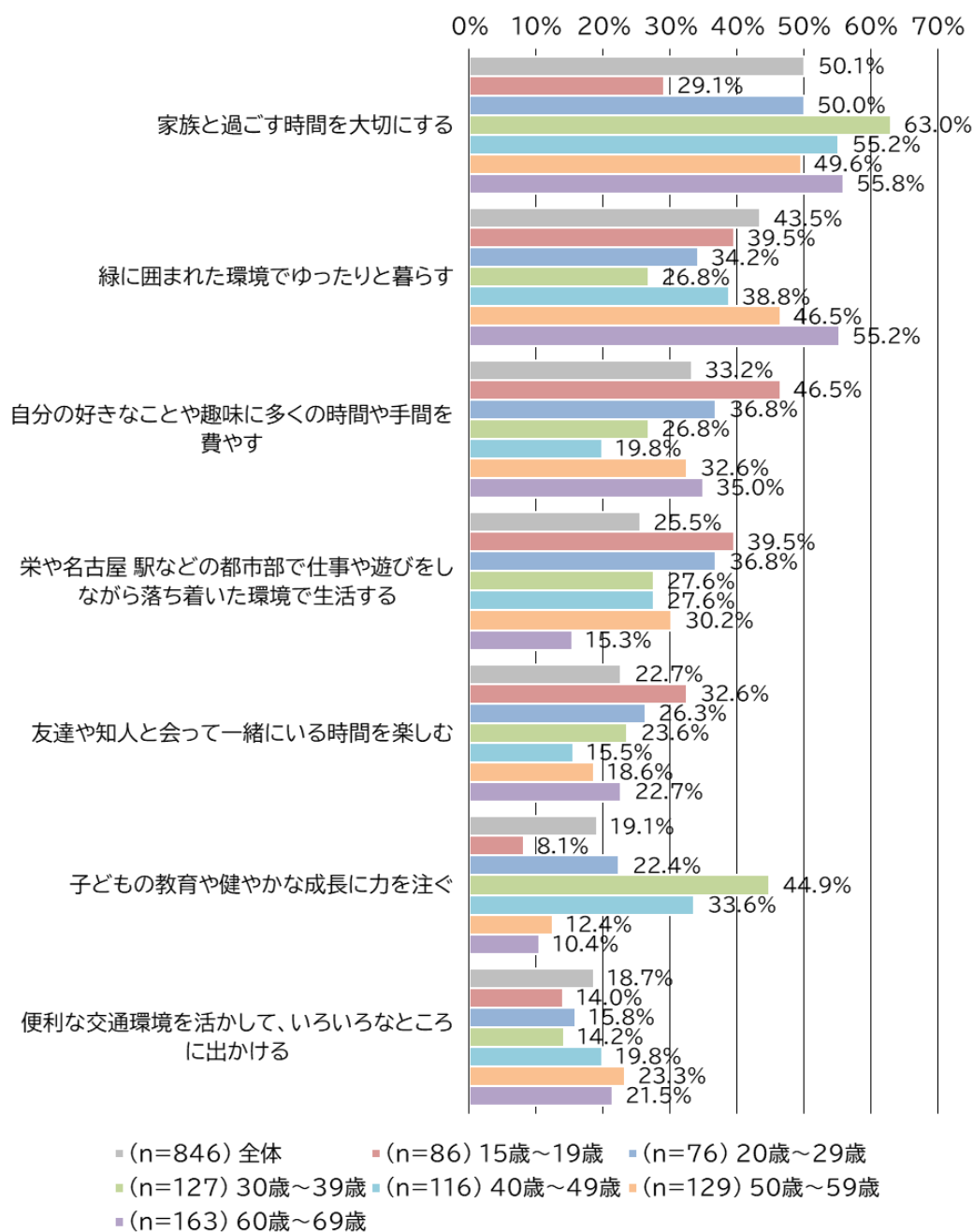


資料：市民意識調査

■稲沢市で希望する暮らし方

- 全体では、「家族と過ごす時間を大切にする」を希望する割合が最も高くなっている。
- 29歳以下の若い世代は、「自分の好きなことや趣味に多くの時間や手間を費やす」や「栄や名古屋駅などの都市部で仕事や遊びをしながら落ち着いた環境で生活する」を希望する割合が他の年代に比べて高くなっている。希望する割合が全体で2番目に高い「緑に囲まれた環境でゆったりと暮らす」は若い世代の割合が低くなっている。

稲沢市で希望する暮らし方〈上位7項目〉(複数回答・3つまで)



資料：市民意識調査

■稲沢市で希望する暮らし方〈大学生〉

- 市内大学の学生が考える稲沢市で希望する暮らし方は、市民が希望する暮らし方にと重なる部分が多くなっている。

稲沢市で希望する暮らし方〈大学生〉

分類	希望する暮らし方
家族と過ごす時間を大切にす る	- 家族を大切にしたい - 広い家で子どもや孫が集まる温かい暮らし - 家の庭で子どもの友人も集まってバーベキュー等を楽しみたい - 仕事と家庭のバランスを大切にしたい穏やかな暮らし 等
緑に囲まれた環境でゆったり と暮らす	- 時間に追われずに自然の中でゆっくりと過ごす - ペットの犬と自然の中を散歩 - 自然が近くにあって季節の移ろいを感じられる - 地域に温かく包まれながら、日々に小さな彩りを添えるまち - 平和に静かに暮らしたい - 一軒家でのびのび暮らしたい 等
自分の好きなことや趣味に多 くの時間や手間を費やす	- 子育てをしながら趣味を楽しめる暮らし - 共通の趣味を持つ人とのコミュニティにより充実した日々を過ごす - 畑で野菜を育てる - 趣味の音楽を楽しみ自分らしい暮らし - バイクや車のガレージのある一軒家に住む - 都会でバリバリ仕事をしつつ、休日は安心感のある街で趣味を楽しみながらゆっくりとした時間を過ごす 等
栄や名古屋駅などの都市部で 仕事や遊びをしながら落ち着 いた環境で生活する	- のどかな暮らしと刺激のある楽しみを両立できる - 都市部に近いが静かで自然みのある地域に暮らしたい - 建物が多い場所より自然をすぐ近くに感じられる場所 - 移動時間を短縮し生活の質を高める - ほどよく便利な環境で生活したい 等
友達や知人と会って一緒にい る時間を楽しむ	- 学生時代の友人との交流を楽しむ - 仲の良い人が近くにいてさみしくない暮らし - ママ友とランチ会に行く - 地域の人が仲良く交流している 等
子どもの教育や健やかな成長 に力を注ぐ	- 子どもの選択肢を広げられる - 安心して子育てや暮らしができる治安の良い地域 - 同年代の子どもが住む住宅街 - 定員に余裕のある保育園、病院等の生活に必要な施設 - 子どもを見守るあたたかい視線 等
便利な交通環境を活かして、い ろいろなところに出かける	- 遠出のために高速道路が近くにある - グランピングや旅館に行きやすく、家族の楽しい思い出を作れて、日頃の疲れを癒せる - 休日は家族で出かけたい 等
その他	- 地域の人が自然に挨拶をかわす、ほどよい距離感 - 住民同士の距離感がちょうど良いコミュニティ - 運動をして健康的に暮らしたい - コンビニエンスストアやドラッグストアが揃っている - ショッピング施設や医療機関、公共交通、公園や図書館といった公共施設等が生活圏内に揃っている 等

資料：次世代によるまちづくり提案をもとに作成

■稲沢市にどんなまちになってほしいか〈小学生〉

- 市内の小学生は、稲沢市の将来に「遊べる場所」や「飲食店・お店」の増加を最も期待している。
また、「思いやり・助け合い」や「安全・安心」といった内容の記述も寄せられている。

稲沢市にどんなまちになってほしいか〈小学生〉（自由記述）

分類	主な内容
遊べる場所が多いまち (621 件)	- 遊べる場所がたくさんあるまち - 公園がたくさんあるまち - 野球場やドームがあるまち - スケボーやトランポリンなど運動ができる場所があるまち 等
飲食店・お店が多いまち (355 件)	- カフェが多いまち - 商店街があるまち - 地元の特産品や名物があるまち - おしゃれなお店があるまち 等
思いやり・助け合いができるまち (284 件)	- みんなが仲良くできるまち - 笑顔があふれるまち - 市民全員が家族みたいに接せるまち - 障害者や高齢者にも優しいまち 等
安全・安心なまち (273 件)	- 犯罪がないまち - 交通ルールを守る人が多いまち - 災害対策がしっかりしているまち 等
自然が豊かなまち (213 件)	- 緑や花がたくさんあるまち - 自然を大切にするまち - 景観がきれいなまち 等
活気・楽しさ・明るさのあるまち (152 件)	- 観光者の方もたくさん来る活気あふれる街 『稲沢』に引っ越ししてくる人が多くなって活気がある町 - 人がいっぱいいるまち 等
有名なものがあるまち (143 件)	- 観光地があるまち - 有名人が来るまち - 稲沢市を象徴するものがあるまち 等
イベントが多いまち (116 件)	- 楽しい行事がたくさんあるまち - はだか祭り、よさこい祭り、花火大会があるまち - みんなが参加したいと思えるイベントがあるまち 等
便利で住みやすいまち (114 件)	- バスや電車が便利なまち - 駅前が発展しているまち - どこでもウーバーイーツが届く街 等
きれいなまち (99 件)	- ポイ捨てがないまち - 公衆トイレがきれいなまち - 道路や歩道がきれいなまち 等
静かで落ち着いているまち (30 件)	- 静かで落ち着ける場所があるまち - 都会すぎない静かなまち - 夜は静かにねれる町 等
その他 (123 件)	- 給食がおいしいまち - 夢がかなう町 - いろいろな人にあった職場がある町 - みんなが個性を大切にできるまち - ナゴヤ球場が来てほしい 等

資料：小学生アンケート調査結果をもとに作成



■ 初めて気づいた・再認識した稲沢市の魅力

- ・トップスポーツプロが私たちの身近なところで生活しているということに感銘を受けました。
- ・高速道路のアクセスが最高。
- ・多くの文化的魅力があることが認識できました。
- ・茶の湯文化があったこと。
- ・知らなかった文化財・歴史物が稲沢に多かったです。
- ・ギンナンパークが皆さんに知られていることに驚きました。



■ 感想

- ・自分が魅力とっていなかった事が、意外と魅力に思われていることが分かった。
- ・自分の考え・感じ方とは違う点からの意見をたくさん聴くことができよかったです。
- ・再発見した魅力を広く発信していきたい。
- ・もう少しグループディスカッションの時間がほしい。
- ・みなさんの意見が市の行政に生かされるといいと思います。
- ・集合した皆さんこそ稲沢市の財産。



稲沢市みらいまちづくりラボ

NEWS LETTER

vol
01

開催概要

次期稲沢市総合計画の策定に向けて、市民の立場から将来の稲沢市のまちづくりのあり方について考えてもらうため、稲沢市みらいまちづくりラボを開催しました。これからのまちづくりにおいて、市民の幸福度を高めていくために、市民の希望を叶えることを中心に検討します。

■ 開催日時 : 2026年1月17日(土) 9:30 ~ 12:00

■ 会場 : 勤労福祉会館 第2・3研修室

■ 参加者数 : 20人

当日のプログラム

テーマ 稲沢市の魅力を再発見する

- 開会・あいさつ : ワークショップの趣旨を説明しました。
- ガイダンス : プログラム・本日の目標の説明をしました。
- アイスブレイク : 自己紹介をし、グループにどんな人がいるか確認しました。
- 個人ワーク : 若い世代に稲沢市に住んでもらうために「紹介したい稲沢市の魅力」を考えました。
- グループワーク : 個人ワークの結果をグループで共有し、とくに若い人に訴求力のある魅力を3つ選定しました。
- 発表・投票 : グループワークの内容を発表し、もっともよいと思う魅力を3つ選んで投票しました。
- 閉会

JR稲沢駅前の開発・起業への挑戦！

- JR稲沢駅前には、事業やイベントに挑戦できるスペースが多くある
- 市で募集してインスタ映え等する店の出店したり、マルシェを開催したりすれば、さらに魅力を高めることができるのではないか
- スポーツ観戦者やボーリング場の利用者等の若者が足を運びたくなる施設としての可能性を感じる

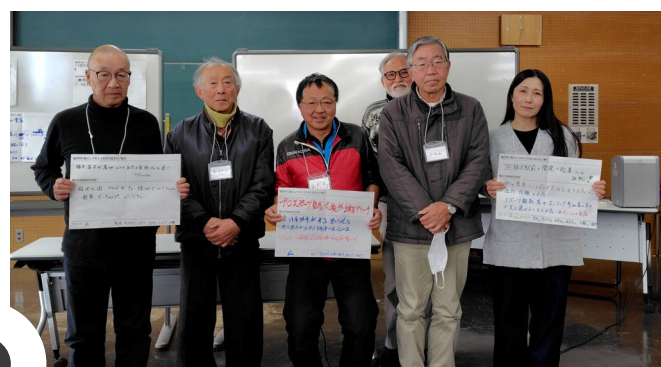


プロスポーツ観戦・応援が出来るアリーナ

- バレーボールやハンドボールなどのプロスポーツ観戦ができるアリーナ(豊田合成記念体育館エントリオ)がある
- 全日本選手が来る、見られる
- 時々選手が近所を自転車で走っている姿も見ることができ、競技や選手が身近に感じられる
- 春高バレーの決勝や吉本の漫才など、イベントが多い！
- ギネス世界記録に記載されているボーリング場がある

植木、苗木の産地としての自然を重視した公園でリフレッシュ

- 稲沢市はかつて日本一の植木・苗木の生産地として知られていた
- 稲沢公園やワイルドネイチャープラザでリフレッシュ・散策・デーキャンプ・バーベキューができる
- 尾張国分寺跡が日本の中心的地方になっていてもおかしくなかったという歴史的背景・ポテンシャルがある



文化豊かな町

- 国府宮や善光寺の神社仏閣が有名
- 美濃路の宿場町としての歴史がある
- 三大奇祭の一つである「はだか祭り」や盆踊り等、文化的な背景が豊か
- 喫茶文化も根付いており、創作料理や茶文化など、独自の魅力がある
- 徳川義直が名古屋に来て、市民に許したのが茶の湯であり、それが喫茶店に変わってきたという経緯がある

自然の魅力が豊富

- 祖父江や木曽川沿いなどには、自然を感じられる場所が多くある
- 祖父江の木曽川沿いのスポーツや川を利用した砂丘等を利用して、若い人たちにも親しみやすい環境をさらに整えて、アピールしていけると良い
- いちょう
- 病院・図書館の周辺が綺麗になっている
- 公園が多く、トイレが設置されているので、子育て世代にとって魅力的



大都市(名古屋)へのアクセスの良さ

- かつて操車場があったこともあり、交通の便が良い
- 鉄道(JR・名鉄)
- 高速等の道路網
- まちが大きく変貌してきた歴史がある
- 機関車などを活用した新たな魅力づくりも期待できる



車があれば生活しやすい

- 車を所有していれば、非常に生活しやすい
- わりと渋滞が少ない
- 高速ICへのアクセス良好
- 今後は高速道路の整備も計画されており、さらに利便性が高まることが期待できる
- 家賃・駐車場料金安い
- 生活必需品が近隣でそろう
- 田んぼや畑が多い西尾張中央道から西側を活用できればまちの発展につながるのではないかと



意外とイベントが多い

- 稲沢市役所の南側駐車場で開催される「TORETATE市」
- 豊かな銀杏の木が広がる祖父江ぎんなんパークでは祖父江ぎんなんマルシェ
- 稲沢厚生病院の「そぶえイチョウ黄葉まつり」とコラボレーションした「病院祭」
- 稲沢駅でのキッチンカーの出店
- 豊田合成記念体育館エントリオでの各種イベント
- ミスター裸男を選ぶ等したら、盛り上がりさらにまちの魅力が高まりそう

自然豊かなやすらぎのある空間

- サリオパーク祖父江(祖父江ワイルドネイチャープラザ)で自然やレクリエーション、スポーツが楽しめる
- 稲沢公園のリニューアルに期待
- まちの中には公園や緑地、農地が身近にあり、自然の中で安らぎのある生活ができる



自然を感じる子育て

- 稲沢市には木曽川祖父江緑地公園などの自然が多く、子どもが自然の中で遊ぶことで感性を豊かに育むことができる
- 現代では子どもに塾や習い事に通わせることが重視されがちだが、子どもが自然と触れ合うことで得られる経験は感性が磨かれ、子育てにおいて大きな価値がある
- 子どもが遊びやすい
- のどかな暮らし

自分らしい暮らしを選べる

- 稲沢市役所の駐車場や公共施設、スポーツ施設、会議室など、さまざまな魅力的な資源がある
- これらを活用することで、自分のライフスタイルに合った暮らし方を選ぶことができる
- スポーツ施設も多い
- 地区ごとにメリットや特徴が異なり、好きな地区を選んで住むことができる点も魅力



老若男女が調和して暮らしている

- 老若男女が調和した暮らしができている
- 自身の選択によって人間関係の近さを選べる
- 魅力的な立地が選べる



就職で県外から転入してきた20代が
新たに‘起業’して自由に活動できるまち

- ・名古屋市や、自動車産業が集まる豊田市が近隣に位置することから、これらの地域の企業に向けた販路を開拓しやすい環境がある
- ・休耕地が多く残っているため、市街化調整区域を適切に転換し、若い世代が活動できる場をつくれる余地がある
- ・若い人たちが地域でチャレンジし、長く住み続けられる環境が整えば、まちの活力にもつながる



稲沢市に転入して間もない小学生が
帰宅しても安心なまち

- ・児童館や発達支援の施設が充実している
- ・空腹が満たされ、友だちと自由に遊び、学ぶことができる
- ・大人も子どもも含めて、共働き家庭や、ひとり親家庭の家族が安心できる



感想 参加者アンケートより

■ あなた自身が希望する稲沢市での暮らし

- ・自分時間をとりながら人とつながりやすい暮らし
- ・住みやすい・子育てがしやすい支援制度がある暮らし・誰でも住むことができる支援制度がある暮らし
- ・老人～乳幼児までが毎日笑顔で生活できる暮らしを希望します
- ・誰もが思う事・想う事を発言でき、実現できる暮らし
- ・世代が集い、楽しめる場所があるといい。いっしょに出かけられる
- ・どの世代の人でも充実して幸福を感じられる暮らしができること

■ 参加した感想

- ・世代の違う方とお話は楽しかったです。ワークショップを通して、交流できる素敵な時間でした
- ・今回のワークショップを通してどんな市にしたいかを考えていたり、より良い市にするための行動をしたりしている方がたくさんいることを知りました。若い世代の意見が大切だと感じる瞬間もたくさんあったので積極的に参加していきたいと思いました
- ・時間がなくて、まとめるのが大変でした。でも、いろんな意見をきけて、良かったです
- ・理由が理想になりがちであった

開催概要

次期稲沢市総合計画の策定に向けて、市民の立場から将来の稲沢市のまちづくりのあり方について考えてもらうため、稲沢市みらいまちづくりラボを開催しました。第2回ワークショップでは、稲沢市で暮らす様々な人たちが、どのような魅力的な暮らしや仕事ができるかを考えました。いろいろな「ペルソナ（人物像）」を設定して検討することで、多様な市民がそれぞれの幸福感を得られるイメージを作り上げました。

- 開催日時：2026年2月21日（土）9:30～12:00
- 会場：勤労福祉会館 第2・3会議室
- 参加人数：19人



当日のプログラム

テーマ 稲沢市のウェルビーイングな暮らしを考える

- 開会・挨拶
- ガイダンス：第1回ワークショップで実施したことの振り返りと、本日の目標の説明をしました。
- 調査結果報告：市民意識調査結果の主なポイントを説明しました。
- アイスブレイク：他己紹介をし、グループにどんな人がいるか確認しました。
- 個人ワーク：市民の属性の稲沢市の魅力的な暮らし方・働き方等のキャッチコピーを考えました。
- グループワーク：個人ワーク結果をグループで共有し、特に稲沢市らしさを感じるものを2つ選定しました。
- 発表・投票：グループワークの内容を発表し、最もよいと思うキャッチコピーを3つ選んで投票しました。
- 閉会

成果

10年後の稲沢市の魅力的な暮らし方・働き方等のキャッチコピー

市内でカフェを開いた人が まちから GIFT がもらえるまち

- ・喫茶店文化がある
- ・老若男女が集う文化もある
- ・祖父江でお店を経営する中で、お客さんからお土産をもらったりするなどの出来事から実感したこともある
- ・まちの人の物だけではなく心の繋がりがあ



80 歳ひとり暮らしが安心して ワクワクできるまち

- ・公民館などで文化的なイベントがたくさんある
- ・イベントなどのアクセスに利用できるコミュニティバスの路線が豊富
- ・治安が良いため、田園風景を見ながら安心して散歩ができる
- ・散歩する中でまちの魅力も再発見できる

年金生活でも人生が 自由に活動的に楽しめるまち

- ・趣味を活かして社会との繋がりを求めている人が多い
- ・行動的でアクティブな人が多い
- ・趣味に関するコミュニティを立ち上げ、そこ作ったものを販売できる仕組みがあれば、活動への意欲にもつながる



世代が違って仲間との繋がりが 充実してつくれるまち

- ・名古屋との距離感が近い
- ・学生たちは徒歩や自転車で気軽に集まって交流できる
- ・行事やイベントに友人を呼びやすい
- ・日本一のイベントや、オンリーワンのイベントがあるため、他の人にも自慢できる充実したまち

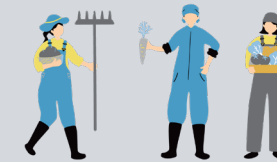


成果

10年後の稲沢市の魅力的な暮らし方・働き方等のキャッチコピー

農地を相続した 40 代が 安心して農業を続けられるまち

- ・肥沃な土地がある
- ・農地が豊富にある
- ・農業従事者が比較的多い
- ・農業政策に力を入れている
- ・一方で、まちと農地が共存し、便利で暮らしやすいまち
- ・銀杏や植木といったブランド商品もある



いなっぴー（稲沢市民）が 恩を巡らすまち

- ・まちのハードやソフトを充実しても、市民がウェルビーイングを実感できなければ住み続けられない
- ・天下の奇祭、国府宮はだか祭で厄を落とし、ハートウォームな市民が交流できる
- ・恩返しよりも恩送りによって人と人がつながり、思いやりが循環する稲沢市をつくっていききたい
- ・情けは人の為ならずであり、親切にしたらいずれ自分に返ってくるということを広めたい

名古屋で働く人（平日昼にいない人） が休日にリフレッシュできるまち

- ・お出かけスポットが多い
(例：リーフウォーク稲沢、アピタタウン稲沢)
- ・自然に触れられる
(例：公園、緑地)
- ・イベントが多い
(例：ウルフドッグス、名古屋文理大学文化フォーラムでのコンサート、国府宮はだか祭、稲沢夏まつりの花火大会、稲沢サンドフェスタ、リーフウォーク稲沢でのイベント)



名古屋や稲沢で働く子育て世代が 自分らしく人とつながれるまち

- ・名古屋市と稲沢市、子育て世代と高齢者が繋がれるとよい
- ・子育て世代が幸せになると、まち全体が幸せになる
- ・人とのつながりで安心を感じるまち
- ・高齢者と子育て世代が協力しあえるまち
- ・お互いのできることに頼ることができるまち
- ・上記の際に、保育園・公民館の利用やカフェが使えると良い



ワークショップを振り返って

- ・ 稲沢市でワークショップが開催されていることを知り、興味を持って参加しましたが、面白かった
- ・ 稲沢市のことを改めて深く考える機会になり、ワークショップで様々な世代と交流できて楽しかった
- ・ 社会を知るため参加しました。多世代の意見を聞き、稲沢について深く考えられて楽しかった
- ・ 稲沢は非常に魅力のある町であるが市民がその魅力に気づいていないのではないかと考えている。ワークショップのような場があることはとてもよい
- ・ 稲沢市のことをあまり知らず、知識を得るため参加しましたが、カフェや史跡など新たな発見がありました
- ・ ワークショップでは皆が積極的に発言をしていて話しやすかったです
- ・ 全ての回に参加したが、皆さんの言葉や熱量は非常に鮮明に覚えている。稲沢を良くしたいという気持ちの表れであり、課題を自分ごととして捉えることができ、楽しく、そして嬉しく思った
- ・ 皆さんの協力を得て意見を出すこともでき、勉強になりました。また参加したいです
- ・ 稲沢市は派手ではないが味わい深い町だと思っています。今後もその良さをPRしてほしいです
- ・ 駅周辺が変わらず飲食店が少なく寂しいと感じました。駅前の活性化を願っています
- ・ 祖父江町では発展を感じず、人口減少が課題です。ぜひ祖父江町の魅力を知ってほしいです
- ・ ウェルビーイングという言葉を知り、今後も学んでいきたいと思いました
- ・ まちづくりにはハードやソフトだけでなく、ウェルビーイングを重視したヒューマンウェア改革が必要だと感じました



Vol
03

稲沢市みらいまちづくりラボ News Letter

開催概要

次期稲沢市総合計画の策定に向けて、市民の立場から将来の稲沢市のまちづくりのあり方について考えてもらうため、稲沢市みらいまちづくりラボを開催しました。最終回となる第3回ワークショップでは、2040年ごろの稲沢市を見通し、取り入れたいキーワードを挙げ、意見交換をしながら「まちづくりのキャッチコピー」を考えました。

■ 開催場所 :2026年3月20日(金・祝)9:30~12:00

■ 会場 : 勤労福祉会館 第2・3研修室

■ 参加人数 :14人

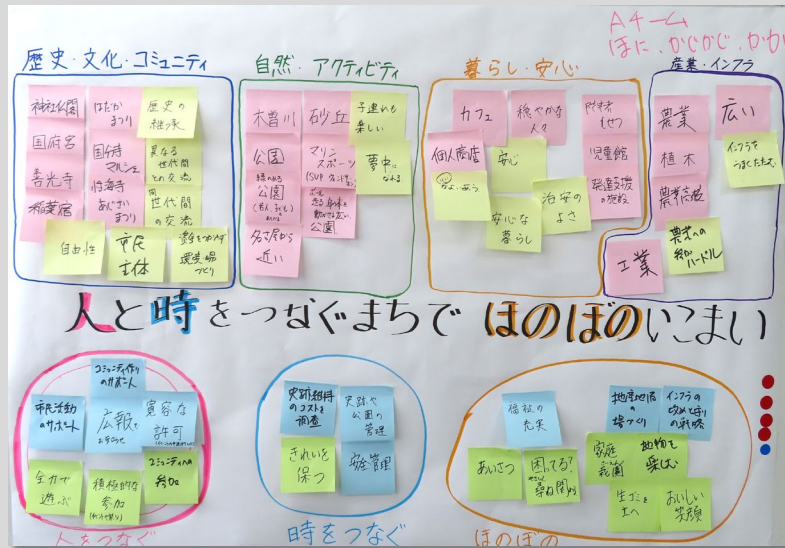


当日のプログラム

テーマ まちづくりのキャッチコピーを考える

- ・ 開会・あいさつ
- ・ ガ イ ダ ン ス :第2回ワークショップで実施したことの振り返りと、本日の目標の説明をしました。
- ・ アイスブレイク :参加者の共通点を話し、ワークショップにどんな人がいるか確認しました。
- ・ 個 人 ワ ー ク :稲沢市のキャッチコピーに取り入れたいキーワードを考えました。
- ・ グループ決め :将来のまちづくりに対して考え方の近い参加者同士でグループを組みました。
- ・ グループワーク :自己紹介をし、グループにどんな人がいるか確認しました。魅力的な暮らしがどのようなになっていくと良いかを意見交換しました。
- ・ 発 表 ・ 投 票 :グループワークの内容を発表し、共感できる稲沢市のキャッチコピーを2つ投票しました。
- ・ 閉 会

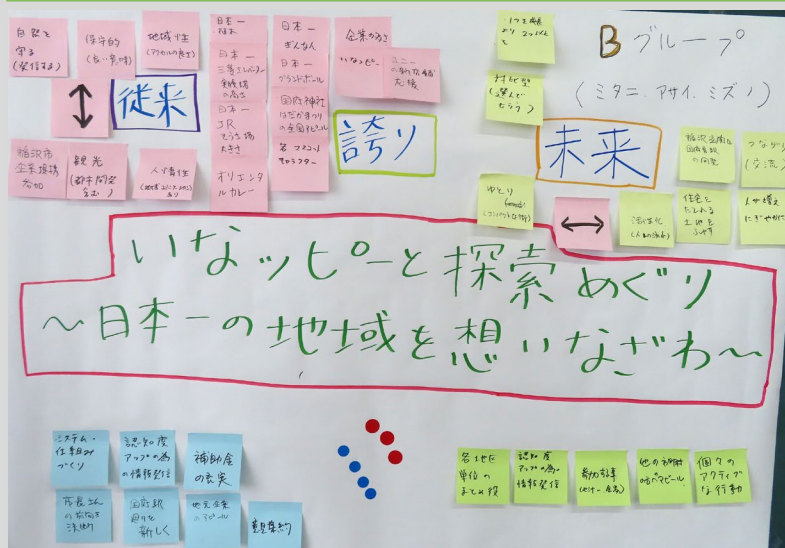
人と時をつなぐまちではのぼのいこまい



- ・稲沢らしい歴史として、神社仏閣の存在や、はだか祭りなどのイベントがある
- ・木曽川や自然豊かな公園があり、カフェなどの人とつながることができる場所がある
- ・市にはもう少し寛容さが必要
- ・歴史的な場所の維持管理が重要
- ・場所をきれいに保つためのゴミ拾いなどの行動を行っていききたい
- ・挨拶をする、みんなで困っている人を助けるなど、市民目線で取り組めることは積極的に行っていききたい



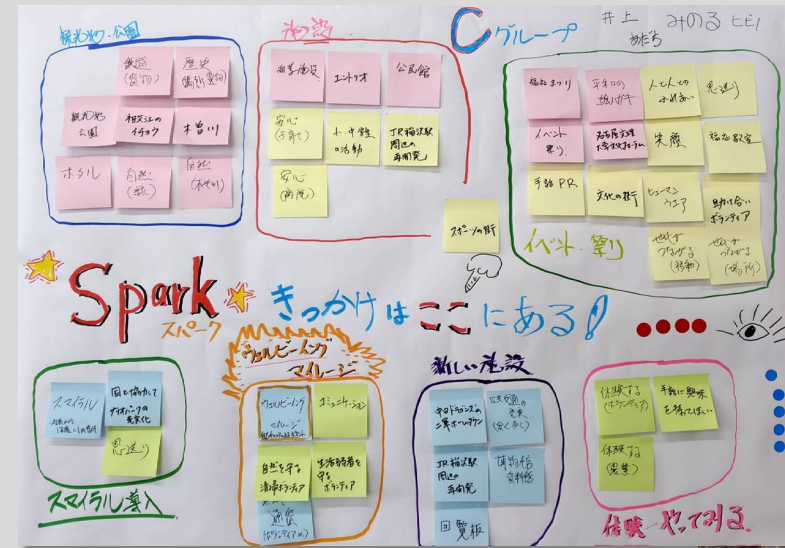
いなっピーと探索巡り～日本一の地域を思いなざわ～



- ・日本一の地域を目指すという想いを込めている
- ・自然や都市開発を含む観光など、日本一の稲沢の良さを探索しながら巡ってほしい
- ・次世代には選択肢を提示し、稲沢を選んでもらいたい
- ・市は認知度アップや積極的なアピール、補助金の充実に取組んでほしい
- ・市民の積極的な参加も重要
- ・市民がポジティブかつアクティブに参加しなければ、まちは変わらない



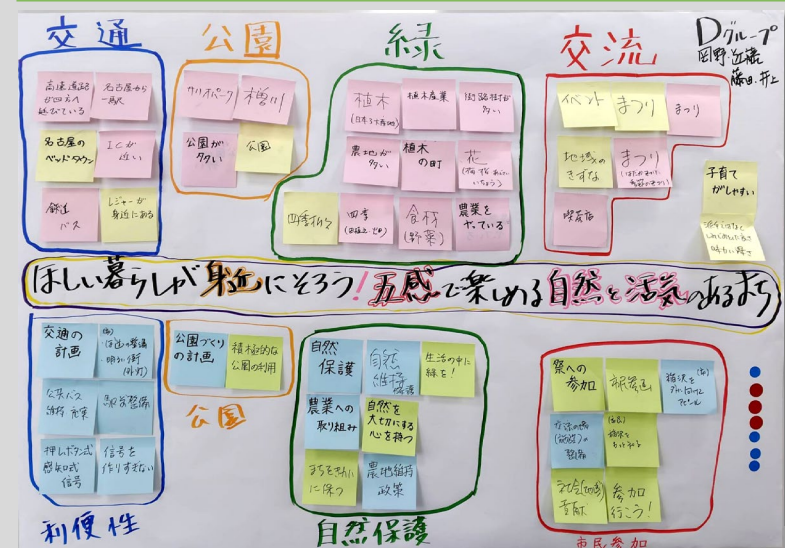
Sparkきっかけはここにある！



- ・Sparkには光るという意味と様々なきらめきやきっかけという意味を込めた
- ・物理的なきっかけやソフトウェア的なきっかけも含め、すべてを包括する大枠のきっかけも表現している
- ・現存している様々な施設や観光地を今後さらに活用し、まちづくりのきっかけにしていきたい
- ・スマイルやウェルビーイングマイレージを行政には導入してほしい
- ・「新しい施設」の開発と、「体験」の機会を増やすことも重要



ほしい暮らしが身近にそろそろ！五感で楽しめる自然と活気のあるまち



- ・稲沢はその欲しい暮らしが手に入る便利なまちである
- ・五感で楽しめる自然と活気が稲沢にはあり、大切にしていきたいと思う
- ・利点が身近に揃っていることが、稲沢の特徴であるという意見が出た
- ・市には交通の利便性の確保や、公園・緑の整備を継続してほしい
- ・稲沢市をより外部にアピールしてほしい
- ・普段の生活の中で自然を大切に、まちをきれいにする心を持つことも重要

